

食品衛生検査所事業概要

平成29年度



横浜市中心卸売市場

本場食品衛生検査所

はじめに

『食』に関するインターネット情報ニュースでは毎日のように全国のどこかで、ノロウイルス、カンピロバクター、アニサキス、腸管出血性大腸菌などによる食中毒事件が発生していることを伝えています。

食中毒発生防止をはじめ、食品中の食品添加物、残留農薬の規格基準順守など、『食の安全・安心』を目的として横浜市では『横浜市食品衛生監視指導計画』を策定し、様々な施策を実施しています。この計画は市民の皆様からご意見をいただいて、市民・営業関係者・行政のそれぞれがリスクを共有して『食の安全・安心』を図ることを目的として策定しています。

この計画に基づいて実施している食品衛生検査所の監視指導業務ならびに食品収去検査業務が微力ながらも『食の安全・安心』に結びつけられれば衛生監視員として役割が果たせるのではないかと痛感しています。

また、今後、卸売市場法の改正や検査精度の高度化を視野に入れて業務を進めなくてはならない状況があり、課題が山積しています。私たちは一つひとつ、これらを解決していきたいと思えます。

ここに私たちが取り組みました結果を『平成29年度事業概要』としてまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

平成30年10月

横浜市中央卸売市場

本場食品衛生検査所長

鳥海正次

目 次

第1 総説

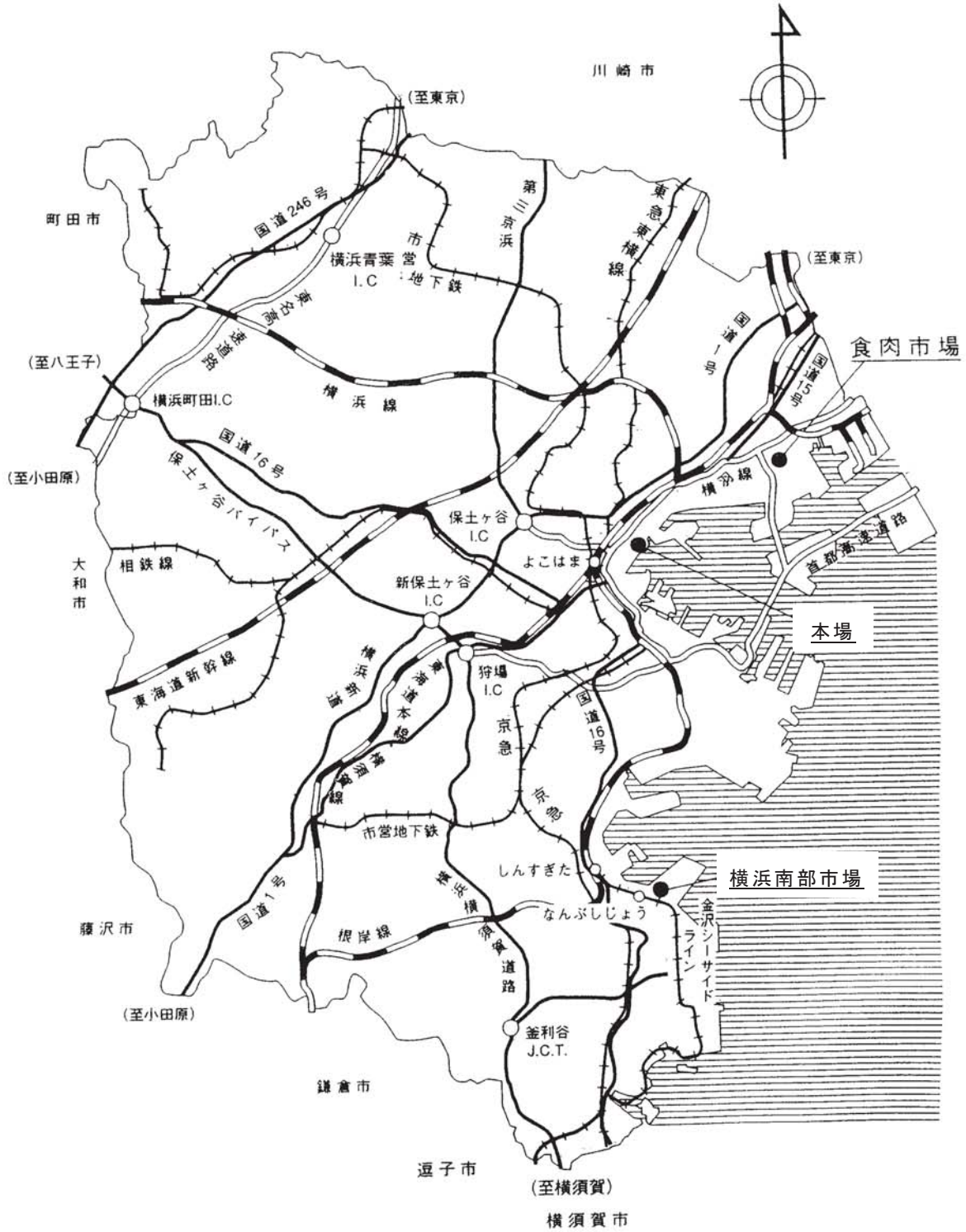
1 沿革	1
2 市場の概要	2
(1) 面積	2
(2) 取扱量の推移	2
(3) 場内業者の内訳	3
3 市場及び検査所平面図	4
(1) 中央卸売市場本場	4
(2) 横浜南部市場	5
4 横浜市における市場食品衛生検査所の位置づけ	6
5 検査所職員内訳	6
6 検査所の業務について	7
7 主要試験検査機器一覧	8

第2 業務実績

1 業務実績	9
2 平成29年度主要業務一覧	12
3 平成29年度監視業務実績	13
4 平成29年度食品別検査状況	14
5 食品分類別・項目別検査状況	
(1) 理化学検査実施数	15

(2) 細菌検査実施数	16
(3) 食品中の放射性物質	17
(4) 残留農薬	27
(5) 抗生物質、合成抗菌剤、内寄生虫用剤	32
(6) 水銀	33
(7) PCB	34
(8) 貝毒	35
(9) ふぐ毒及び魚種鑑別	35
6 違反食品等一覧	36
7 相談対応	36
8 衛生教育実施結果	36
9 その他の業務	36
～市場食品衛生検査所関係年表～	37

横浜市中央卸売市場位置図



第1 総説



本場全景



横浜南部市場
全景

1 沿革

- 昭和 6年 中央卸売市場本場開場(市人口65万人、対象100万人)。
- 22年 (2月) 神奈川県が横浜市内に中央卸売市場監視室を設置、食品衛生監視員2名が駐在。
- 25年 (4月) 横浜市に食品衛生事務が委譲される。
(5月) 神奈川保健所分室食品衛生検査室発足、同保健所から食品衛生監視員4名を派遣駐在。
- 45年 (9月) 衛生局公衆衛生課所轄の食品衛生検査所となる(8名配置)。
- 48年 10名配置となる。
(10月) 中央卸売市場南部市場食品衛生検査所設置。
(11月) 中央卸売市場南部市場開場、同時に南部市場食品衛生検査所業務開始(6名配置)。
- 49年 南部市場食品衛生検査所10名配置となる。
- 53年 (4月) 14年計画の「本場再整備事業」開始。
- 60年 (1月) 同計画の一部が終了、本場食品衛生検査所新庁舎完成。
- 61年 (6月) 中央卸売市場本場食品衛生検査所が衛生局保健部所轄となる。
同所長が行政権限の大幅な委任を受けるとともに、南部市場食品衛生検査所を統轄。
- 平成 2年 (6月) 機構改革にともない衛生局保健部が分割され、生活衛生部が設置される。
生活衛生部所轄となる。
- 5年 (7月) 本場食品衛生検査所に食品監視機動班(3名)が設置される。
- 6年 (7月) 機構改革にともない、南部市場食品衛生検査所が課制となり、生活衛生部所轄となる。
- 11年 (4月) 機構改革にともない、本場食品衛生検査所内の機動班が廃止され、新たに食品専門監視班として食品衛生課に設置される。
- 18年 (4月) 機構改革にともない、健康福祉局健康安全部所轄となる。
- 19年 (4月) 機構改革にともない、健康福祉局健康安全部が市保健所を兼ねる。
- 27年 (3月) 中央卸売市場南部市場の中央卸売市場としての廃止とともに、南部市場食品衛生検査所を閉所。本場食品衛生検査所と統合。

2 市場の概要

(1)面積

	本 場
敷地面積	115,843㎡
建物延面積	131,789㎡
卸売部	16,205㎡
青果部	9,137㎡
水産物部	5,458㎡
鳥卵部	260㎡
低温	(1,350㎡)
仲卸部	4,599㎡
青果部	1,599㎡
水産物部	3,000㎡
関連事業者店舗	1,964㎡
倉庫	1,487㎡
冷蔵庫	10,571㎡
配送センター	5,390㎡
駐車場(台数)	1,949台

注)施設面積は、使用指定・許可面積 (平成30年4月1日現在)

(2)取扱量の推移

単位 (t)

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
本場	青果	368,127	359,915	371,573	354,952	352,329
	水産	50,351	46,834	57,435	64,156	58,114
南部市場	青果	91,508	109,325			
	水産	20,780	15,711			

(平成30年4月1日現在)

南部市場は平成27年4月以降、卸売業者・仲卸業者・売買参加者が本場で取引した物品の受け渡しを行い、本場を補完する加工・配送、流通の場として活用されています。

・市場外指定保管場所 (卸売市場法第39条、横浜市中心卸売市場業務条例第42条)

卸売業者からの申請に基づき市長が市場外指定保管場所として指定します。市場外指定保管場所とは、産地から物品を、市場を経由しないで直接受け渡しできる場所です。

・市場外施設 (横浜市中心卸売市場業務条例第49条)

仲卸業者は開設者に届け出れば、市場外に貯蔵・保管・仕分け・配送等の場所を設置することができます。市場外施設では、買い手から注文があった物品を受け渡すことができます。

(3)場内業者の内訳

	本場
水産物部	
卸売業者	2
仲卸業者	65
青果部	
卸売業者	2
仲卸業者	30
鳥卵部	
卸売業者	1
関連事業者	
食料品卸売業	13
買荷保管業	1
運送業	3
倉庫業	2
加工業	3
飲食営業	14
必需品販売業	4
金融業	1
理容業	1

(平成30年4月1日現在)

[食品衛生法による分類]

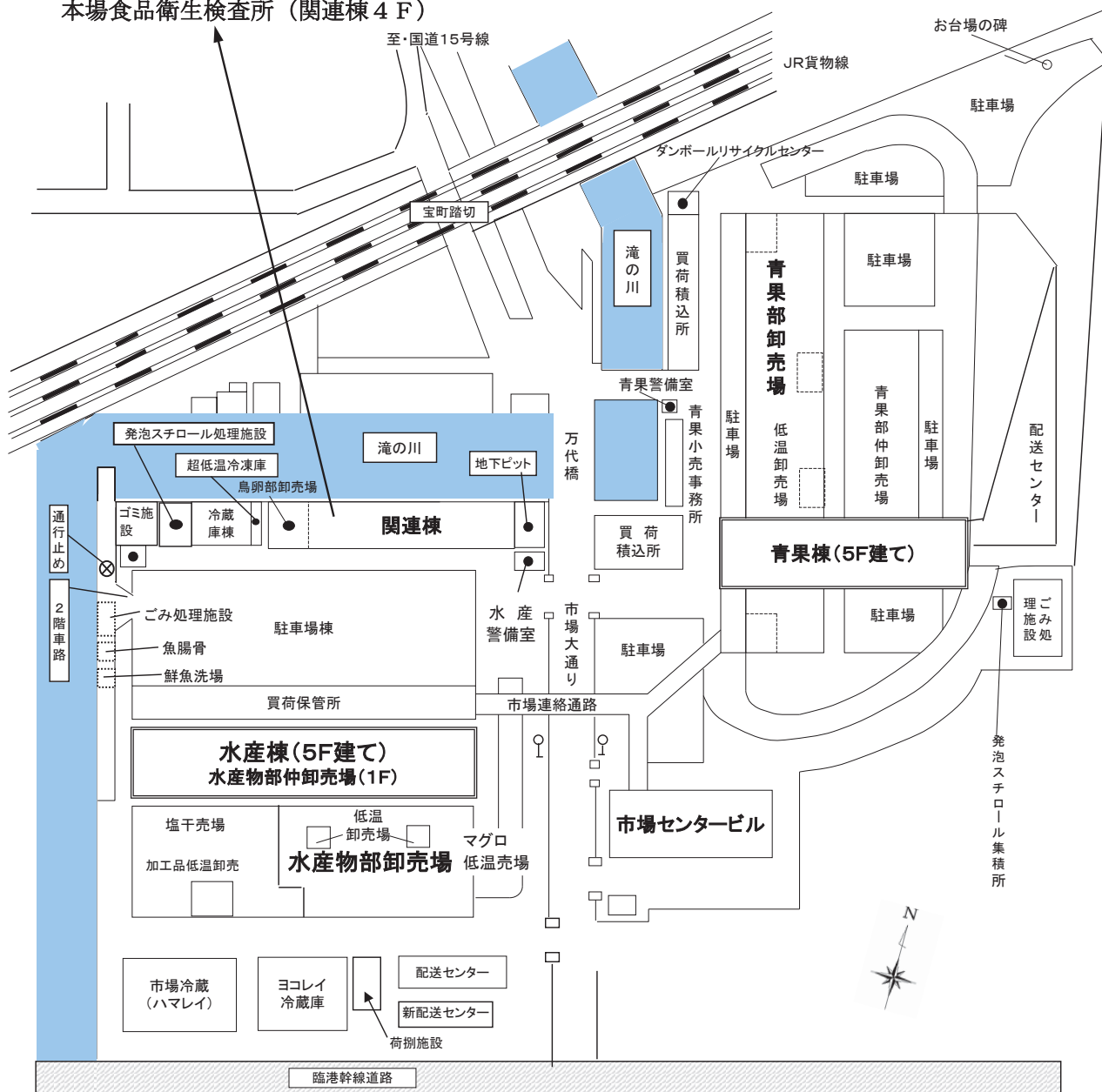
営業の種類		対象施設	
		本場	南部市場
飲食店	自動販売機	0	4
	その他	23	19
菓子製造業		1	0
魚介類販売業		109	51
魚介類せり売営業		2	0
魚肉ねり製品製造業		1	0
食品の冷凍又は冷蔵業		13	10
喫茶店	自動販売機	18	7
	その他	1	0
乳類販売業	自動販売機	6	2
	その他	5	5
食肉処理業		1	1
食肉販売業		17	10
そうざい製造業		6	2
ソース類製造業			0
氷雪製造業		1	0
氷雪販売業		0	1
魚介類行商		6	10
魚介類加工業		9	7
発酵乳等販売業		1	1
事業所給食施設		1	0
野菜果物販売業		43	31
菓子販売業		1	10
食品販売業		37	28
食品製造業		5	3
そうざい販売業		1	8
弁当類販売業		1	2
酒類販売業		0	2
醤油製造業		0	1
器具・容器包装・おもちゃ製造販売業		4	5
合 計		313	220

(平成30年4月1日現在)

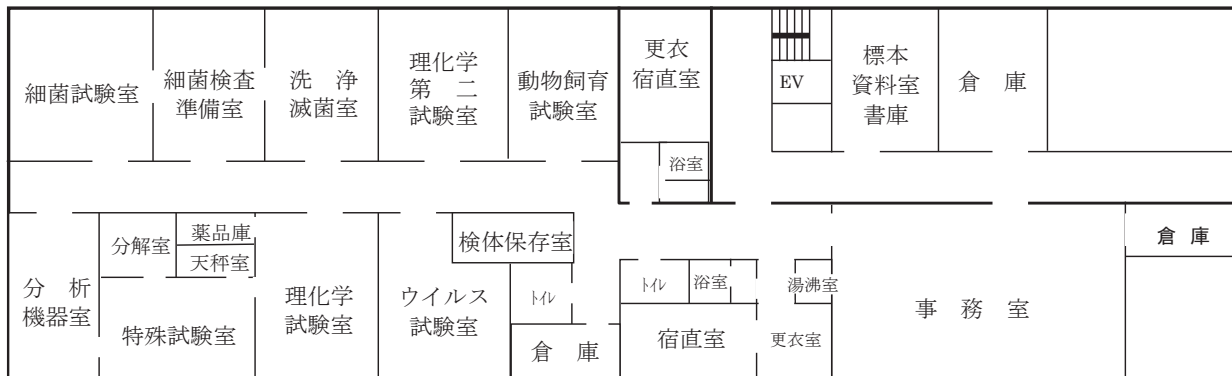
3 市場及び検査所平面図

(1) 中央卸売市場本場 平面図

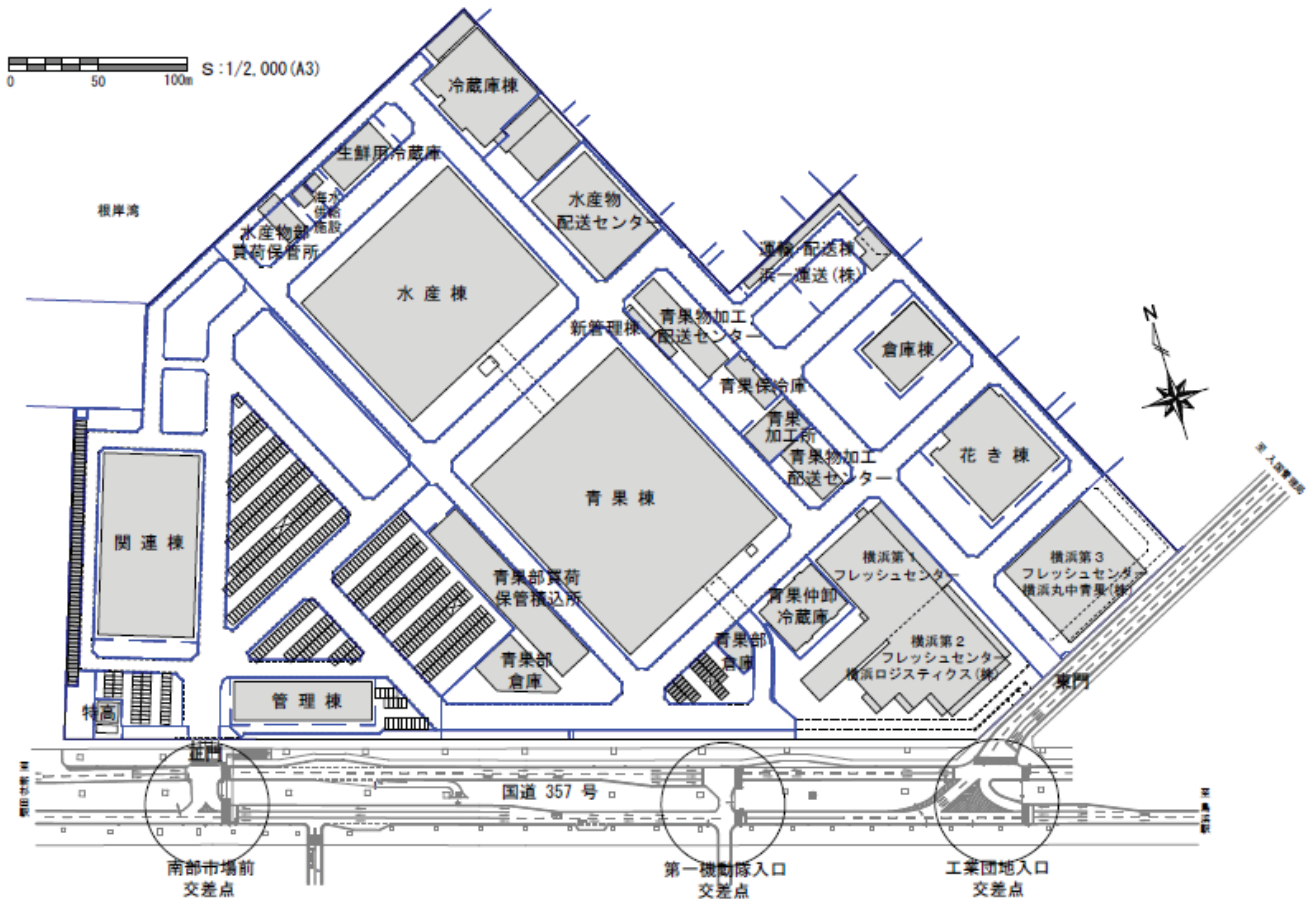
本場食品衛生検査所（関連棟 4F）



中央卸売市場本場食品衛生検査所 総面積744.0㎡



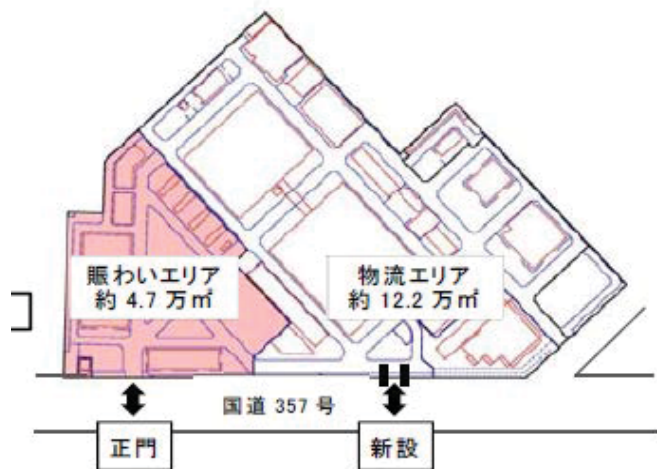
(2) 横浜南部市場 平面図



～横浜南部市場の今後の整備計画～

平成 27 年 3 月 31 日をもって中央卸売市場としては廃止した南部市場は、本場を補完する加工・配送、流通の場として活用する「物流エリア」と、公募事業者の提案、整備により活用する「賑わいエリア」に分け、事業を進めています。

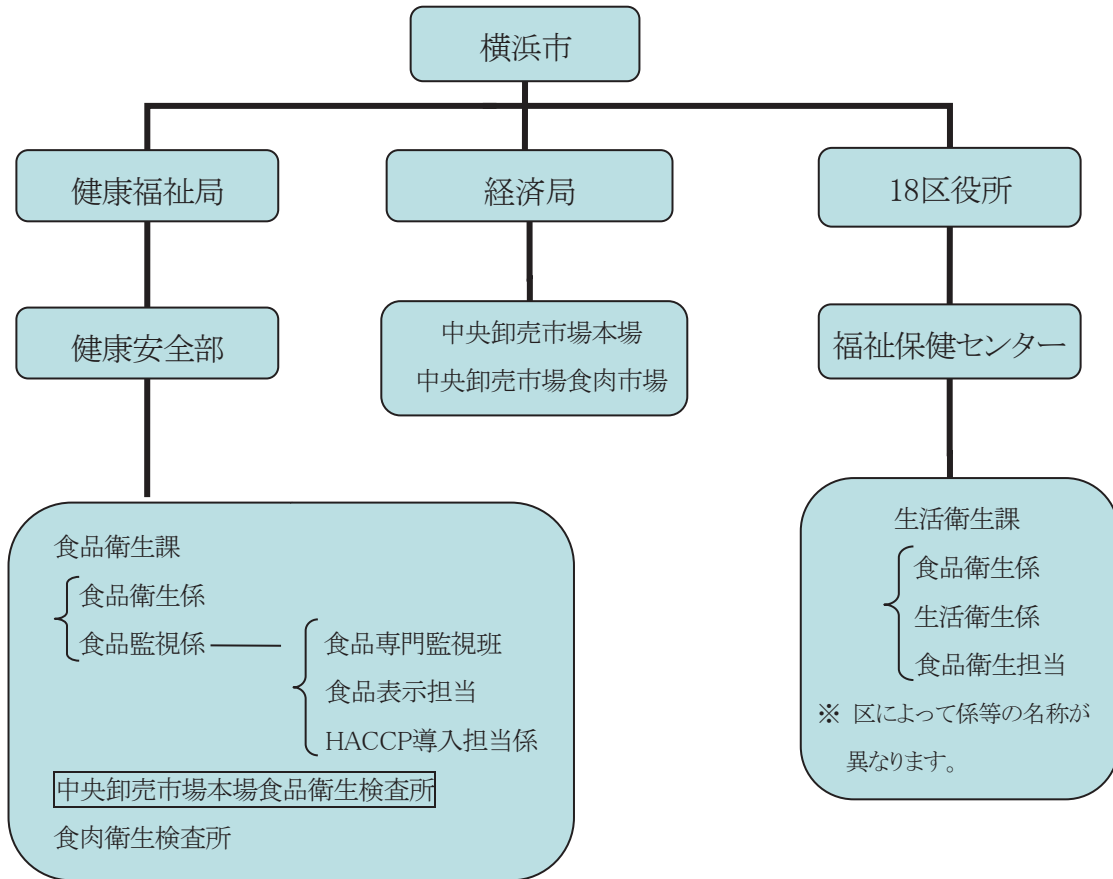
南部市場が昭和 48 年の開設以来 40 年以上地元には生鮮食品を供給してきた特性を活かした集客施設の建設により、横浜南部市場の活性化を図ることを目指しており、オープンは平成 31 年 9 月を予定しています。



4 横浜市における市場食品衛生検査所の位置づけ

横浜市には、中央卸売市場として本場、食肉市場があり、いずれも横浜市経済局が運営しています。

これらの市場には、それぞれ食品の衛生確保を図るために食品衛生検査所等(以下「検査所」という。)が設置され、各市場を經由し市中に流通する食品の検査を行っています。検査所は、横浜市健康福祉局健康安全部に属しており、食品の安全・衛生を確保する各区の福祉保健センターと連携して市場内の監視と検査を分担しています。



5 検査所職員内訳

総数	所長	係長	食品衛生監視員		事務
			理化学	細菌	
15	1	2	6	5	1

(平成30年4月1日現在)

6 検査所の業務について

現在、早朝勤務と通常勤務の二体制で業務を行っています。

(1) 早朝勤務

「せり」の前に、せり場において監視指導及び収去を行っています。

2名一組で週3～4回実施しており、検査所における収去の大部分はこの早朝勤務で行っています。

せり終了後は仲卸業者、関連業者に対して監視指導を行っています。

早朝勤務の主な業務内容は次のとおりです。

- ア 食品等取扱の監視及び指導
- イ 食品等の表示点検
- ウ 貝類等が各種規制に適合しているかの調査
- エ 有毒魚等の排除
- オ 食品の収去

(2) 通常勤務

始業時のミーティングにおいて、早朝勤務の報告や一日の方針などの打合せを行った後、場内巡回による監視指導等を行い、検査業務に移ります。

通常勤務の主な業務内容は次のとおりです。

- ア 仲卸業者、関連業者、行商作業場その他場内全般について、前記(1)ア～オの業務
- イ 場内関係者との打合せ及び各種業務連絡
- ウ 検査業務
 - (ア)細菌検査
 - (イ)理化学検査
 - (ウ)病理寄生虫検査
- エ 検査成績書の作成・交付
- オ 違反品・不良品等の処理
- カ 苦情・各種衛生相談等問合せの処理
- キ 場内店舗の許可調査
- ク 講習会等の開催

7 主要試験検査機器一覧

	品名	数量
細菌	電気ふらん器	7
	嫌気性培養装置	1
	超音波洗浄器	1
	顕微鏡	2
	顕微鏡撮影装置	2
	ストマッカー	2
	システムダイリユーター	4
	ホモジナイザー	2
	冷蔵庫(培地保存用)	5
	冷凍庫(試薬・検体保存用)	1
	高圧滅菌器(ガス式)	3
	高圧滅菌器(電気式)	3
	ウォーターバスインキュベーター	2
	乾熱滅菌器	2
	電子上皿天秤	2
	超音波ピペット洗浄器	2
	ウォーターバス	2
	コロニーカウンター	3
	ドライイングシェルフ	1
	試験管ミキサー	4
純水製造装置	1	
オートデシケーター	2	
クリーンベンチ	1	
高速遠心分離器	2	
PCR 用機材一式	1	
Real-Time PCR 用機材一式	1	
超低温フリーザー	1	
pHメーター	1	
病理・寄生虫	顕微鏡	1
	実体顕微鏡	1
	顕微鏡撮影装置	1
その他	冷蔵庫	1
	冷凍庫	5
	スライドプロジェクター	1
	赤外線温度計	6

	品名	数量
理学	超高速ホモジナイザー	4
	試験管ミキサー	1
	フードプロセッサー ロボクーブミキサー	1
	フードプロセッサー クイジナートミキサー	1
	トリオブレンダー	2
	電子上皿天秤	5
	天秤台(除振台)	2
	超音波ピペット洗浄器	1
	マッフル炉	1
	電気定温乾燥器	2
	ボトルキャビネット	6
	デシケーター	3
	薬用冷蔵庫	2
	冷凍冷蔵庫	1
	フリーザー	1
	アスピレーター	3
	吸引マニホールド	3
	遠心分離器	2
	シェーカー	1
	ロータリーエバポレーター	6
コンプレッサー	1	
低温循環水槽	3	
水蒸気発生装置	3	
超音波洗浄器	2	
生物環境調節装置	1	
ガラス電極 pH メーター	1	
分光光度計	1	
水銀分解装置	1	
水銀分析装置	1	
紫外線照射器	2	
過酸化水素計	1	
ガスクロマトグラフ質量分析計	1	
高速液体クロマトグラフ	1	
高速液体クロマトグラフ質量分析計	1	
シンチレーションサーベイメータ	1	
ガンマ線核種分析システム	1	
スーパーシールド遮へい缶	1	

第2 業務実績



細菌検査業務

理化学検査業務



監視業務

1 業務実績

(1) 監視指導業務

中央卸売市場本場食品衛生検査所では、早朝監視及び通常監視を行っています。早朝監視は、せり売り開始前の午前3時すぎから2名の食品衛生監視員が、有毒有害魚介類及び違反・不良食品の排除並びに生食用貝類の温度測定等を行っています。通常監視は、せり売りされた食品が仲卸店舗や市場内外の関連施設に移動した段階で、これら食品の取扱い及び保管状況等の監視指導を行っています。

平成29年度は、両市場内533施設に対し、延べ14,418件の監視指導を実施しました。(P.13)

毎年、高温多湿となる6月1日から8月31日までを『夏期食品等一斉点検期間』、食品の流通量が増加する11月1日から12月30日までを『年末食品等一斉点検期間』に設定し、食中毒の予防、不良食品の排除及び適正表示の徹底を目的とした、監視指導及び収去検査を実施しています。

平成29年度の主要業務 (P.12)

(2) 検査業務

平成29年度の中央卸売市場本場における農産物の年間取扱量は、約35万トン、水産物は約6万トンでした。(P.2)

これらの食品について、月別、品目別に年間計画に基づき、理化学検査及び細菌検査を行いました。1,798検体の食品等を収去し、理化学検査を28,417項目、細菌検査を3,748項目、表示検査を519項目、計32,684項目の検査を実施しました。なお、魚介類のPCB、メチル水銀の検査については、市衛生研究所に検査を依頼して実施しました。

また、市内のスーパー等で販売されているそうざい、洋生菓子や各種食品製造工場の製品等について、福祉保健センター及び食品専門監視班から理化学検査6,175項目、細菌検査565項目、計6,740項目の検査を実施しました。

この他、信頼性確保のための精度管理110項目の検査を実施しました。

(P.14)

ア 理化学検査

(ア) 食品添加物

保存料、着色料、発色剤等の食品添加物が適正に使用され、かつ適正に表示されているか、検査を実施しました。(P.15)

(イ) 放射性物質

福島原発事故の影響を受けて、市内を流通する食品中の放射性物質の核種分析検査を実施しています。市場流通水産物155検体、農産物38検体、量販店等流通販売品50検体、学校給食食材8検体の検査を実施しましたが、基準値を超えるものはありませんでした。(P.17～26)

(ウ) 残留農薬

有機塩素系・有機リン系・ピレスロイド系等の農薬検査を実施しました。国産農産物137検体、輸入農産物11検体の検査を実施し、ホウレンソウ1検体について残留基準値を超える農薬を検出しました。(P.27～31)

(エ) 抗生物質・合成抗菌剤・内寄生虫用剤

魚介類、鶏卵など計 39 検体について検査を実施しましたが、すべて不検出でした。

(P. 32)

(オ) 水銀

魚介類 60 検体の検査を実施しました。ハチビキ 1 検体について暫定的規制値 (0.4ppm) を超える総水銀を検出したため、本市衛生研究所でメチル水銀検査を依頼したところ、暫定的規制値 (0.3ppm) を超えるメチル水銀を検出しました。(P. 33)

(カ) PCB

魚介類 10 検体の検査を実施しましたが、暫定的規制値 (遠洋沖合魚介類 0.5ppm、内海内湾魚介類 3ppm) を超えるものではありませんでした。(P. 34)

(キ) 貝毒

二枚貝が毒化する時期等の情報に基づき、二枚貝 33 検体の検査を実施しましたが、麻痺性貝毒 (規制値 4MU/g 以下)、下痢性貝毒 (規制値 0.16 mg OA 当量/kg 以下) について、規制値を超えるものではありませんでした。(P. 35)

(ク) ふぐ毒

ふぐ加工製品 (ふぐ刺し、ふぐちり材料パック入り等) 5 検体のふぐ毒の検査を実施しましたが、すべて検出限界値 (5.25MU/g) 未満でした。(P. 35)

イ 細菌検査

(ア) 規格基準の定められた食品

生食用かき、生食用鮮魚介類、魚肉ねり製品、食肉製品、冷凍食品、冰雪等について、夏期食品等一斉点検期間及び年末食品等一斉点検期間を中心に検査を実施しましたが、違反はありませんでした。(P. 16、36)

(イ) 規格基準の定められていない食品等

a 衛生規範の定められた食品

そうざい類や洋生菓子など、衛生規範で生菌数などの指導基準が定められている食品について検査を実施し、そうざいについて 1 検体不適事例を発見しました。(P. 36)

b その他

生食用及び加熱用かきについては、規格基準検査と同時に 44 検体のノロウイルス検査を実施しましたが、陽性となった検体はありませんでした。(P. 16)

活魚水槽水 (市場せり場内及び仲卸の店頭) に設置) の検査は、活魚の多くが生食用に供されるため、これら使用水の食中毒菌汚染状況の把握を主目的として、海水、海水ろ過水とともに検査を実施し、二次汚染防止に努めています。

生食用の貝類 (舌切・小柱・アオヤギ等)、魚類 (刺身用切り身、まぐろなど) 及びウニ等については、規格基準項目に加えて食中毒菌も検査を実施し、取扱いについて注意を喚起しました。

(3) 違反食品等

食品衛生法に違反する食品を2件（しらす干しの過酸化水素、ほうれん草の残留農薬）、食品表示法に関する違反を1件発見しました。その他、水銀の暫定的規制値及び衛生規範不適の食品をそれぞれ1件ずつ発見しました。

これらの食品は流通防止等の対応を図りました。（P. 36）

(4) 相談対応

食品等の相談件数は17件ありました。（主な事例：P. 36）

(5) 食品衛生検査所等の業務管理基準（GLP）

平成9年度から導入されたGLPに基づき、検査の精度管理を実施しました。外部精度管理、内部精度管理あわせて110項目を実施しました。（P. 14）

2 平成29年度主要業務一覧

	業務名	主な対象食品	担当		実施期間 (○印は月を表わす)	備考
			細	化		
収去検査関係業務	生食用鮮魚介類の検査	小柱・舌切等	○		④……………③	☆
	魚介類の水銀検査			○	④……………③	
	輸入鮮魚介類の検査	生うに・エビ等	○	○	④……………③	
	酸化防止剤の検査	にぼし・めざし・まぼし等		○	④……………③	
	魚介類毒性検査	ぶ・ホタテガイ・鮭等		○	④……………③	
	年末魚卵類一斉検査		○	○	⑪	
	抗菌性物質の残留検査	ブリ・タイ等		○	④……………③	
	魚介類のPCB検査			○	④……………③	
	加工食品の検査 (魚介類、野菜豆類等)	魚肉ねり製品、珍味そう ざい、ネギトロ等	○	○	④……………③	
	放射性物質検査	農水産物・加工品	○	○	④……………③	
	生かきの検査		○		⑩……………③	
	ふぐ加工製品等の検査	ふぐさし・ふぐちり等		○	⑫……………③	
	漬物の検査		○	○	④……………③	
	生食用野菜の検査		○		④……………③	
	輸入柑橘類の防ばい剤検査			○	④……………③	
	残留農薬検査			○	④……………③	
	関連棟刺身のつま、卵焼等検査	つま、卵焼等	○		④……………③	
	鶏卵の検査	生卵	○	○	④……………③	
	食肉製品等の検査		○	○	④……………③	
	菓子等の検査(生菓子を含む)	焼き菓子、生菓子等	○	○	④……………③	
サラダ類(そうざい)		○	○	④……………③		
検食、フキトリ検査(飲食店等)		○		⑥……⑨		
活魚水の細菌検査		○		④……………③		
夏期一斉検査	食肉製品、氷雪、清涼 飲料水、冷凍食品、マ グロ(仲卸各店)等	○	○	⑥⑦⑧		
年末一斉検査	おせち、正月用品等	○	○	⑪⑫		
寄生虫の検査		○		④……………③		
監視指導業務	魚介類販売業の一斉監視指導				⑤……⑧	弁当屋を含む
	魚介類行商の一斉監視指導				⑤……⑧	
	飲食店の一斉監視指導				⑤…⑦	
	秀級施設の推進事業				⑧…⑪	
	表示点検				④……………③	
	学校給食用物資納入業者の監視指導				⑥……⑩	
	食中毒予防月間				⑧	
	ホタテガイ等二枚貝の監視指導				④……………③	
	関連棟施設の一斉監視指導				⑥……⑪	
冷凍冷蔵関係の一斉監視指導				⑧……………②		
低温せり場の一斉監視指導				⑦⑧		
講習会・ 会議等	食品衛生責任者講習会				⑨ ③	全業種について 講習会を実施
	消費者衛生教育				④……………③	
	首都圏5都市市場検査所連絡会議				⑤ ②	
	全国市場衛生検査所協議会関係				⑥ ⑪	

☆ 一部の検査は衛生研究所において実施

3 平成29年度監視業務実績

業種	本場		南部	
	対象施設数	監視件数	対象施設数	監視件数
飲食店 一般食堂	10	19	6	
飲食店 レストラン			2	
飲食店 すし屋	2	2	1	
飲食店 そば屋	1	1		
飲食店 中華料理店			1	
飲食店 給食食堂	5	4	3	3
飲食店 軽飲食	4	5	2	
飲食店 弁当屋	1	1	1	1
飲食店 そうざい			3	2
飲食店 自動販売機による営業			4	
菓子製造業	1	1		
魚介類販売業	94	177	44	7
魚介類販売業 冷凍包装	11	6	2	
魚介類販売業 冷蔵包装	1		1	
魚介類販売業 冷凍又は冷蔵包装	3	3	4	1
魚介類せり売営業	2			
魚肉ねり製品製造業	1	2		
食品の冷凍又は冷蔵業	13	5	10	3
喫茶店	1			
喫茶店 カップ式自動販売機	18		7	
乳類販売業 専業販売	1	1		
乳類販売業 店頭販売	4		5	
乳類販売業 自動販売機による営業	6		2	
食肉処理業	1		1	1
食肉販売業	2		2	2
食肉販売業 冷凍包装	9	6	3	1
食肉販売業 冷蔵包装	1		2	
食肉販売業 冷凍又は冷蔵包装	5	6	3	1
醤油製造業			1	
そうざい製造業	6	4	2	2
ソース類製造業				
缶詰又は瓶詰食品製造業				
冰雪製造業	1			
冰雪販売業			1	
魚介類行商	6	4	10	2
魚介類加工業	9	8	7	5
発酵乳等販売業	1		1	
許可営業施設	220	255	131	31
工場・事業所給食	1			
食品製造業	5	1	3	
野菜・果物販売業	43	5	31	4
そうざい販売業	1		8	1
菓子販売業	1		10	1
弁当類販売業	1		2	
酒類販売業			2	
食品販売業	37	8	28	1
器具・容器包装・おもちゃ製造販売業	4		5	
報告営業施設	93	14	89	7
監視件数(A)		269		38
食品表示等監視件数(B)		7,696		6,415
総監視件数(A+B)		7,965		6,453

4 平成29年度食品別検査状況

食品分類	収去検体数		検査項目数					衛生検査 搬入数	違反件数(項目数)						行政処分件数					衛生規範 不適合
	総数	理化学検査	細菌検査	表示検査	その他	監視	査			廃棄処分	返品処分	営業の 禁止	その他	行政指導 措置事件数						
							総数		理化						字細	菌表	示			
魚介類	343	1,739	1,430	272	37	0	11	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
無加熱採取冷凍食品	8	36	0	31	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
冷凍食品	13	150	98	39	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
凍結直前に加熱された 加熱後採取冷凍食品	9	85	49	27	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
凍結直前未加熱の 加熱後採取冷凍食品	5	24	0	20	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生食用冷凍鮮魚介類	600	3,545	1,861	1,459	225	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
魚介類加工品 (かん詰、びん詰を除く)	34	1,212	1,042	136	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肉、卵類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳製品及び 乳類加工品	49	177	0	147	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
穀類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)	235	23,029	22,842	135	52	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
野菜類、果実類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)	63	647	422	162	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
菓子類	10	215	178	30	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
清涼飲料水	37	111	0	111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
氷雪	198	594	0	594	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水	4	72	56	12	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かん詰、びん詰食品	190	1,048	439	573	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他の食品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
器具及び容器包装	1,798	32,684	28,417	3,748	519	0	11	4	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
小計	115	356	0	356	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
調理器具等フキトリ検査	6,740	6,175	565																	
福祉保健センター等依頼検査 (フキトリを除く)	225	0	225																	
福祉保健センター等依頼検査 (フキトリ)	110	67	43																	
精度管理検査	1,913	39,534	34,659	4,356	519	0	11	4	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
総計																				

5 平成29年度食品分類別・項目別検査状況

(1) 理化学検査実施数

食品分類	食品添加物										放射物	性質	残留農薬	抗菌剤	性成剤	P	C	B	属	フ	グ	毒	毒	揮	発	性	
	合甘	成味	着色料	合保	成存	成料	酸防	化止	発色	漂白																	
魚介類					18										980		71					66					6
無加熱摂取冷凍食品																											
凍結直前に加熱された 加熱後摂取冷凍食品															98												
凍結直前未加熱の 加熱後摂取冷凍食品															49												
生食用冷凍鮮魚介類																											
魚介類加工品 (かん詰、びん詰を除く)	16		1,033		476		8		32		22				98							5					171
肉、卵類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)			220		60				20						742												
乳製品及び 乳類加工品																											
穀類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)																											
野菜類、果実類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)	42		363		80						1																
菓子類			292		129						1																
清涼飲料水	10		88		80																						
水																											
かん詰、びん詰食品			44		12																						
その他の食品			319		99						13																
小計	68		2,359		954		8		52		37				1,967		71					71					177
調理器具等フキトリ検査																											
福祉保健センター等 依頼食品検査	31		638		250		38		25		9																
精度管理検査	24				5																	4					24
総計	123		2,997		1,209		46		77		46				1,967		71					75					201

(2) 細菌検査実施数

() 内について、細菌数は違反または不適合事例数、その他項目は陽性数を示す

食品分類	細菌数	大腸菌群	E.coli※	E.coli 最確数	黄色 ブドウ球菌	サルモネラ	クロストリジウム 属菌	腸炎 ビブリオ	腸炎ビブリオ財 最確数	ノロ ウイルス	クドア
魚介類	60		33 (2)	27	60			3	47	26	16
冷凍食品	無加熱摂取冷凍食品	8	8		8				7		
	凍結直前に加熱された 加熱後摂取冷凍食品	13	13		13						
	凍結直前未加熱の 加熱後摂取冷凍食品	9		9	9						
	生食用冷凍鮮魚介類	5	5		5				5		
魚介類加工品 (かん詰、びん詰を除く)	427	127 (1)	311 (1)		427 (2)			167			
肉、卵類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)	34	2	32		34	32	2				
乳製品及び 乳類加工品											
穀類及びその加工品 (かん詰、びん詰を除く)	49	23	26		49						
野菜類、果実類及び その加工品 (かん詰、びん詰を除く)	45		45 (1)		45						
菓子類	54	54			54						
清涼飲料水	10	10			10						
氷雪	37	37 (2)			37						
水	198		198 (19)					198 (2)			
かん詰・びん詰食品	4		4		4						
その他の食品	177 (1)	4	177 (3)		177 (2)			29			
フキトリ	115	50 (5)	76 (16)		115 (8)						
小計	1,245 (1)	333 (8)	911 (42)	27 0	1,047 (12)	32 0	2 0	397 (2)	59 0	26 0	16 0
福祉保健センター等依頼検査	318 (2)	49 (1)	227 (2)	18	135	25				18	
精度管理検査	17	2	6		6	6		6			
総計	1,580 (3)	384 (9)	1,144 (44)	45	1,188	63	2	403 (2)	59	44	16

※大腸菌を含む

(3) 食品中の放射性物質

ア 水産物(市場買取分)

単位:Bq/kg

	品名	産地		買取日	セシウム-134	セシウム-137	セシウム合計
		都道府県	漁獲水域				
1	アイナメ	岩手県	三陸北部沖	7月14日	<0.701	<0.759	検出限界未満
2	アオリイカ	神奈川県	神奈川県沖	4月21日	<0.746	<0.825	検出限界未満
3	アオリイカ	神奈川県	神奈川県沖	4月28日	<0.791	<0.800	検出限界未満
4	アオリイカ	神奈川県	神奈川県沖	5月12日	<0.715	<0.898	検出限界未満
5	アカアマダイ	神奈川県	神奈川県沖	11月21日	<0.738	<0.849	検出限界未満
6	アカカマス	神奈川県	神奈川県沖	11月21日	<0.736	<0.963	検出限界未満
7	アカガレイ	北海道	北海道沖	1月12日	<0.697	<0.750	検出限界未満
8	アブラツノザメ(ムキサメ)	青森県	青森県沖	1月19日	<0.893	<0.871	検出限界未満
9	アンコウ	青森県	青森県沖	11月29日	<0.907	<0.790	検出限界未満
10	アンコウ	青森県	青森県沖	12月22日	<0.705	<0.714	検出限界未満
11	アンコウ	青森県	青森県沖	1月19日	<0.605	<0.832	検出限界未満
12	インダイ	千葉県	千葉県沖	5月31日	<0.696	<0.823	検出限界未満
13	イボダイ(エボダイ)	神奈川県	神奈川県沖	12月8日	<0.642	<0.853	検出限界未満
14	ウスメバル	青森県	青森県沖	4月26日	<0.770	<0.738	検出限界未満
15	カツオ	千葉県	千葉県沖	4月7日	<0.724	<0.946	検出限界未満
16	カツオ	千葉県	千葉県沖	4月26日	<0.826	<0.863	検出限界未満
17	カツオ	千葉県	千葉県沖	5月26日	<0.695	<0.796	検出限界未満
18	カツオ	千葉県	千葉県沖	6月2日	<0.757	<0.870	検出限界未満
19	カツオ	千葉県	千葉県沖	6月8日	<0.812	1.19	1.2
20	カツオ	宮城県	宮城県沖	7月14日	<0.877	<0.748	検出限界未満
21	カツオ	宮城県	宮城県沖	7月28日	<0.709	<0.898	検出限界未満
22	カツオ	宮城県	宮城県沖	8月3日	<0.676	<0.754	検出限界未満
23	カツオ	宮城県	宮城県沖	8月18日	<0.793	<0.828	検出限界未満
24	カツオ	宮城県	宮城県沖	9月6日	<0.879	<0.985	検出限界未満
25	カツオ	千葉県	千葉県沖	10月27日	<0.759	<0.878	検出限界未満
26	カツオ	千葉県	千葉県沖	2月15日	<0.729	<0.934	検出限界未満
27	カツオ	千葉県	千葉県沖	3月6日	<0.810	<0.887	検出限界未満
28	カツオ	千葉県	太平洋沖	3月15日	<0.633	<0.898	検出限界未満
29	カツオ	千葉県	千葉県沖	3月27日	<0.687	<0.801	検出限界未満
30	キアンコウ	青森県	青森県沖	2月15日	<0.696	<0.813	検出限界未満
31	キチジ(キンキ)	岩手県	三陸北部沖	4月28日	<0.854	<0.834	検出限界未満

	品名	産地		買取日	セシウム-134	セシウム-137	セシウム合計
		都道府県	漁獲水域				
32	キチジ(キンキ)	青森県	青森県沖	5月26日	<0.755	<0.910	検出限界未満
33	キチジ(キンキ)	北海道	北海道沖	10月6日	<0.598	<0.817	検出限界未満
34	キンメダイ	千葉県	千葉県沖	4月26日	<0.733	<0.900	検出限界未満
35	キンメダイ	千葉県	千葉県沖	5月26日	<0.842	<0.822	検出限界未満
36	キンメダイ	千葉県	千葉県沖	6月2日	<0.746	<0.741	検出限界未満
37	キンメダイ	神奈川県	神奈川県沖	8月16日	<0.878	<0.817	検出限界未満
38	キンメダイ	千葉県	千葉県沖	8月18日	<0.709	<0.815	検出限界未満
39	キンメダイ	神奈川県	神奈川県沖	8月25日	<0.842	<0.804	検出限界未満
40	キンメダイ	神奈川県	神奈川県沖	9月29日	<0.812	<0.723	検出限界未満
41	キンメダイ	千葉県	千葉県沖	12月15日	<0.682	<0.754	検出限界未満
42	キンメダイ	千葉県	千葉県沖	12月22日	<0.626	<0.777	検出限界未満
43	キンメダイ	千葉県	千葉県沖	2月1日	<0.867	<0.697	検出限界未満
44	キンメダイ	千葉県	千葉県沖	3月27日	<0.737	<0.802	検出限界未満
45	クロマグロ(メジマグロ)	千葉県	千葉県沖	12月22日	<0.686	<0.773	検出限界未満
46	コノシロ(コハダ)	千葉県	千葉県沖	8月16日	<0.717	<0.756	検出限界未満
47	コノシロ(コハダ)	千葉県	千葉県沖	9月15日	<0.831	<1.05	検出限界未満
48	コノシロ(コハダ)	千葉県	千葉県沖	1月26日	<0.663	<0.779	検出限界未満
49	サクラマス(ホンマス)	青森県	青森県沖	4月7日	<0.774	<0.792	検出限界未満
50	サクラマス(ホンマス)	青森県	青森県沖	6月2日	<0.696	<0.916	検出限界未満
51	サクラマス(ホンマス)	青森県	青森県沖	6月8日	<0.831	<0.808	検出限界未満
52	サクラマス(ホンマス)	青森県	青森県沖	3月27日	<0.802	<0.730	検出限界未満
53	サケ	岩手県	岩手県沖	9月6日	<0.595	<0.897	検出限界未満
54	サケ	岩手県	岩手県沖	10月6日	<0.691	<0.688	検出限界未満
55	サヨリ	神奈川県	神奈川県沖	11月2日	<0.666	<0.780	検出限界未満
56	サワラ	岩手県	三陸北部沖	9月29日	<0.900	<0.948	検出限界未満
57	サワラ	岩手県	三陸北部沖	10月13日	<0.790	<0.843	検出限界未満
58	サワラ	宮城県	三陸北部沖	11月21日	<0.897	<0.899	検出限界未満
59	サンマ	宮城県	宮城県沖	10月6日	<0.738	<0.736	検出限界未満
60	シログチ(イシモチ)	神奈川県	神奈川県沖	8月25日	<0.770	<0.996	検出限界未満
61	ジンドウイカ(ヒイカ)	宮城県	宮城県沖	6月8日	<0.764	<0.753	検出限界未満
62	ジンドウイカ(ヒイカ)	宮城県	宮城県沖	3月6日	<0.990	<0.961	検出限界未満
63	スケトウダラ	青森県	青森県沖	12月15日	<0.757	<0.965	検出限界未満
64	スケトウダラ	青森県	青森県沖	10月27日	<0.764	<0.884	検出限界未満

	品名	産地		買取日	セシウム-134	セシウム-137	セシウム合計
		都道府県	漁獲水域				
65	スズキ	神奈川県	神奈川県沖	12月20日	<0.663	<0.896	検出限界未満
66	スズキ	神奈川県	神奈川県沖	2月9日	<0.734	<0.812	検出限界未満
67	スルメイカ	神奈川県	神奈川県沖	5月31日	<0.825	<0.877	検出限界未満
68	ニシン	北海道	北海道沖	3月15日	<0.719	<0.829	検出限界未満
69	ニシン	北海道	北海道沖	3月23日	<0.837	<0.858	検出限界未満
70	ネズミザメ(モウカザメ)	宮城県	三陸南部沖	3月23日	<0.792	<0.892	検出限界未満
71	ババガレイ(ナメタガレイ)	青森県	青森県沖	4月7日	<0.642	<0.770	検出限界未満
72	ババガレイ(ナメタガレイ)	宮城県	宮城県沖	4月28日	<0.733	<1.00	検出限界未満
73	ババガレイ(ナメタガレイ)	青森県	青森県沖	5月26日	<0.848	<0.731	検出限界未満
74	ババガレイ(ナメタガレイ)	青森県	青森県沖	6月2日	<0.540	<0.853	検出限界未満
75	ババガレイ(ナメタガレイ)	青森県	青森県沖	6月8日	<0.728	<0.890	検出限界未満
76	ババガレイ(ナメタガレイ)	青森県	青森県沖	1月19日	<0.617	<0.794	検出限界未満
77	ババガレイ(ナメタガレイ)	青森県	青森県沖	3月6日	<0.607	<0.829	検出限界未満
78	ヒラマサ	千葉県	千葉県沖	5月31日	<0.649	<0.913	検出限界未満
79	ヒラマサ	千葉県	千葉県沖	7月14日	<0.860	<0.775	検出限界未満
80	ヒラメ	青森県	青森県沖	4月26日	<0.737	<0.938	検出限界未満
81	ヒラメ	宮城県	宮城県沖	6月23日	<0.700	<0.791	検出限界未満
82	ヒラメ	千葉県	千葉県沖	9月6日	<0.569	<1.01	検出限界未満
83	ビンナガマグロ (ビンチョウマグロ)	宮城県	宮城県沖	2月1日	<0.759	<0.809	検出限界未満
84	ビンナガマグロ (ビンチョウマグロ)	千葉県	太平洋沖	3月23日	<0.721	<0.751	検出限界未満
85	ブリ	北海道	北海道沖	10月13日	<0.684	<0.635	検出限界未満
86	ブリ(イナダ)	神奈川県	神奈川県沖	4月21日	<0.717	<0.847	検出限界未満
87	ブリ(イナダ)	青森県	青森県沖	10月27日	<0.830	<0.570	検出限界未満
88	ブリ(イナダ)	岩手県	三陸北部沖	11月2日	<0.827	<1.05	検出限界未満
89	ブリ(ワラサ)	宮城県	宮城県沖	5月12日	<0.719	<0.971	検出限界未満
90	ブリ(ワラサ)	千葉県	千葉県沖	6月23日	<0.770	<0.823	検出限界未満
91	ブリ(ワラサ)	青森県	青森県沖	7月7日	<0.691	<0.916	検出限界未満
92	ブリ(ワラサ)	青森県	青森県沖	7月20日	<0.821	<0.997	検出限界未満
93	ブリ(ワラサ)	岩手県	岩手県沖	8月18日	<0.726	<0.807	検出限界未満
94	ブリ(ワラサ)	宮城県	宮城県沖	8月25日	<0.815	<0.854	検出限界未満
95	ブリ(ワラサ)	青森県	青森県沖	9月6日	<0.697	<0.752	検出限界未満
96	ブリ(ワラサ)	宮城県	宮城県沖	9月29日	<0.696	<0.801	検出限界未満
97	ブリ(ワラサ)	宮城県	三陸南部沖	10月13日	<0.742	<0.845	検出限界未満

	品名	産地		買取日	セシウム-134	セシウム-137	セシウム合計
		都道府県	漁獲水域				
98	マアジ	神奈川県	神奈川県沖	5月12日	<0.809	<0.614	検出限界未満
99	マアジ	神奈川県	東京湾	5月31日	<0.803	<0.739	検出限界未満
100	マアジ	神奈川県	神奈川県沖	7月28日	<0.641	<0.787	検出限界未満
101	マアジ	神奈川県	神奈川県沖	8月16日	<0.799	<1.01	検出限界未満
102	マアジ	神奈川県	神奈川県沖	9月15日	<0.614	<0.927	検出限界未満
103	マアジ	神奈川県	神奈川県沖	12月8日	<0.692	<0.829	検出限界未満
104	マアジ	神奈川県	神奈川県沖	12月20日	<0.641	<0.835	検出限界未満
105	マアジ	神奈川県	神奈川県沖	11月2日	<0.703	<0.721	検出限界未満
106	マアナゴ	千葉県	千葉県沖	11月29日	<0.759	<0.695	検出限界未満
107	マイワシ	岩手県	三陸北部沖	2月9日	<0.671	<0.829	検出限界未満
108	マガレイ	北海道	北海道沖	3月23日	<0.840	<0.838	検出限界未満
109	マコガレイ	宮城県	宮城県沖	5月12日	<0.666	0.938	0.94
110	マコガレイ	青森県	青森県沖	1月19日	<0.659	<0.785	検出限界未満
111	マコガレイ	青森県	青森県沖	2月1日	<0.707	<0.848	検出限界未満
112	マコガレイ	北海道	北海道沖	2月9日	<0.791	<0.787	検出限界未満
113	マコガレイ	青森県	青森県沖	3月27日	<0.660	<0.835	検出限界未満
114	マゴチ(コチ)	宮城県	宮城県沖	6月23日	<0.766	1.27	1.3
115	マサバ	青森県	青森県沖	7月20日	<0.913	<0.733	検出限界未満
116	マサバ	宮城県	宮城県沖	11月21日	<0.837	<1.10	検出限界未満
117	マサバ	静岡県	静岡県沖	3月15日	<0.664	<0.841	検出限界未満
118	マダイ	千葉県	千葉県沖	4月21日	<0.812	<0.833	検出限界未満
119	マダイ	千葉県	千葉県沖	10月13日	<0.693	<0.721	検出限界未満
120	マダイ	千葉県	千葉県沖	11月2日	<0.711	<0.794	検出限界未満
121	マダラ	青森県	青森県沖	11月29日	<0.764	<0.749	検出限界未満
122	マダラ	青森県	青森県沖	12月15日	<0.810	<0.934	検出限界未満
123	マダラ	青森県	青森県沖	7月7日	<0.715	<0.754	検出限界未満
124	マダラ	岩手県	三陸北部沖	9月15日	<0.900	<0.821	検出限界未満
125	マダラ	青森県	青森県沖	2月15日	<0.648	<0.914	検出限界未満
126	マダラ	青森県	青森県沖	3月6日	<0.829	<0.837	検出限界未満
127	マツカワカレイ	北海道	北海道沖	8月18日	<0.677	<0.847	検出限界未満
128	マナマコ(アカナマコ)	神奈川県	神奈川県沖	12月20日	<0.686	<0.637	検出限界未満
129	マナマコ(アカナマコ)	神奈川県	神奈川県沖	1月12日	<0.786	<0.604	検出限界未満
130	マナマコ(アカナマコ)	神奈川県	神奈川県沖	1月26日	<0.745	<0.775	検出限界未満

	品名	産地		買取日	セシウム-134	セシウム-137	セシウム合計
		都道府県	漁獲水域				
131	マボヤ	岩手県	三陸北部沖	3月15日	<0.826	<0.871	検出限界未満
132	ミズダコ(ムキタコ)	青森県	青森県沖	4月7日	<0.675	<0.774	検出限界未満
133	ミズダコ(ムキタコ)	青森県	青森県沖	7月7日	<0.668	<0.877	検出限界未満
134	ミズダコ(ムキタコ)	青森県	青森県沖	8月3日	<0.893	<0.883	検出限界未満
135	ムツ	神奈川県	神奈川県沖	7月28日	<0.820	<0.753	検出限界未満
136	メカジキ	宮城県	宮城県沖	6月23日	<0.701	<0.847	検出限界未満
137	メカジキ	岩手県	三陸北部沖	7月14日	<0.857	<1.02	検出限界未満
138	メカジキ	宮城県	宮城県沖	7月20日	<0.771	<0.897	検出限界未満
139	メカジキ	宮城県	宮城県沖	7月28日	<0.749	<0.898	検出限界未満
140	メカジキ	宮城県	宮城県沖	8月3日	<0.802	<0.941	検出限界未満
141	メカジキ	宮城県	宮城県沖	9月15日	<0.651	<0.893	検出限界未満
142	メカジキ	宮城県	宮城県沖	9月29日	<0.669	<0.891	検出限界未満
143	メカジキ	宮城県	宮城県沖	10月27日	<0.763	<0.795	検出限界未満
144	メカジキ	宮城県	宮城県沖	12月22日	<0.625	<0.762	検出限界未満
145	メカジキ	宮城県	宮城県沖	1月12日	<0.920	<0.912	検出限界未満
146	メカジキ	宮城県	宮城県沖	1月26日	<0.522	<0.909	検出限界未満
147	メカジキ	宮城県	宮城県沖	2月1日	<0.718	<0.822	検出限界未満
148	メカジキ	宮城県	宮城県沖	2月15日	<0.798	<0.782	検出限界未満
149	メバチマグロ	宮城県	宮城県沖	10月6日	<0.704	<0.832	検出限界未満
150	ヤリイカ	岩手県	岩手県沖	12月8日	<0.752	<0.866	検出限界未満
151	ヤリイカ	岩手県	岩手県沖	12月15日	<0.826	<0.867	検出限界未満
152	ヤリイカ	岩手県	岩手県沖	12月20日	<0.829	<0.727	検出限界未満
153	ヤリイカ	神奈川県	神奈川県沖	2月9日	<0.786	<0.706	検出限界未満
154	ワカメ(メカブ)	宮城県	宮城県沖	1月12日	<1.01	<1.21	検出限界未満
155	ワカメ(メカブ)	神奈川県	神奈川県沖	1月26日	<1.07	<1.36	検出限界未満

イ 農産物(市場買取分)

単位: Bq/kg

	品名	産地	買取日	セシウム-134	セシウム-137	セシウム合計
1	イチゴ	栃木県	12月26日	<0.807	<0.765	検出限界未満
2	イチゴ	栃木県	1月30日	<0.706	<0.810	検出限界未満
3	カリフラワー	茨城県	5月19日	<0.723	<0.805	検出限界未満
4	キャベツ	千葉県	6月16日	<0.774	<0.664	検出限界未満
5	キャベツ	岩手県	8月10日	<0.699	<0.680	検出限界未満
6	キャベツ	岩手県	10月20日	<0.832	<0.934	検出限界未満
7	キャベツ	神奈川県産	3月13日	<0.880	<0.813	検出限界未満
8	キュウリ	埼玉県	4月14日	<0.925	<0.785	検出限界未満
9	キュウリ	埼玉県	6月16日	<0.865	<0.856	検出限界未満
10	キュウリ	福島県	7月12日	<0.967	<0.834	検出限界未満
11	キュウリ	福島県	9月22日	<0.640	<0.945	検出限界未満
12	キュウリ	秋田県	9月22日	<0.767	<0.742	検出限界未満
13	キュウリ	神奈川県	10月20日	<0.859	<0.879	検出限界未満
14	キュウリ	福島県	11月17日	<0.679	<0.923	検出限界未満
15	キュウリ	神奈川県	12月26日	<0.929	<0.865	検出限界未満
16	キュウリ	群馬県	1月30日	<0.726	<0.783	検出限界未満
17	コマツナ	茨城県産	3月13日	<0.855	<0.972	検出限界未満
18	サツマイモ	茨城県	8月10日	<0.641	<0.809	検出限界未満
19	サニーレタス	茨城県	11月17日	<0.898	<0.902	検出限界未満
20	サヤエンドウ	福島県	5月19日	<0.754	1.04	1.0
21	ダイコン	神奈川県	2月23日	<0.669	<0.675	検出限界未満
22	トマト	福島県	7月12日	<0.691	<0.850	検出限界未満
23	ナシ	福島県	9月22日	<0.643	<0.623	検出限界未満
24	ニラ	茨城県	4月14日	<0.834	<0.934	検出限界未満
25	ニラ	茨城県	6月16日	<0.863	<0.874	検出限界未満
26	ニラ	茨城県	12月26日	<0.565	<0.931	検出限界未満
27	ニラ	茨城県	1月30日	<0.802	<0.968	検出限界未満
28	ニンジン	茨城県	2月23日	<0.886	<1.05	検出限界未満
29	ピーマン	茨城県	5月19日	<0.977	<1.04	検出限界未満
30	ピーマン	福島県	7月12日	<0.963	<1.09	検出限界未満
31	ピーマン	茨城県	11月17日	<1.01	<0.789	検出限界未満

	品名	産地	買取日	セシウム-134	セシウム-137	セシウム合計
32	ピーマン	茨城県	2月23日	<1.22	<1.03	検出限界未満
33	ブドウ	山形県	8月10日	<0.805	<0.867	検出限界未満
34	ブドウ	山梨県	10月20日	<0.677	<0.889	検出限界未満
35	リンゴ	青森県産	3月13日	<0.752	<1.14	検出限界未満
36	レタス	茨城県	4月14日	<0.695	<0.813	検出限界未満
37	レンコン	茨城県	9月22日	<0.727	<0.825	検出限界未満
38	レンコン	茨城県	2月23日	<0.821	<0.864	検出限界未満

ウ 量販店等流通販売品（区福祉保健センター等依頼検査分）

単位: Bq/kg

	品目	産地	適用基準	買取日	セシウム-134	セシウム-137	セシウム合計
1	精米		一般食品	6月19日	<0.888	<0.794	検出限界未満
2	牛乳		牛乳	6月19日	<0.857	<0.738	検出限界未満
3	牛乳	北海道	牛乳	6月19日	<0.666	<0.601	検出限界未満
4	牛乳		牛乳	6月19日	<0.770	<0.812	検出限界未満
5	清涼飲料水(乳児用食品)		乳児用食品	6月19日	<2.68	<2.62	検出限界未満
6	調製粉乳		乳児用食品	6月19日	<1.46	<1.36	検出限界未満
7	調製粉乳		乳児用食品	6月19日	<1.09	<0.982	検出限界未満
8	米飯類(乳児用食品)		乳児用食品	6月19日	<2.68	<2.71	検出限界未満
9	精米	秋田県	一般食品	7月18日	<0.690	<0.749	検出限界未満
10	ミネラルウォーター		飲料水	7月18日	<0.781	<0.763	検出限界未満
11	牛乳	栃木県	牛乳	7月18日	<0.824	<0.931	検出限界未満
12	牛乳	北海道	牛乳	7月18日	<0.867	<0.783	検出限界未満
13	乳飲料		牛乳	7月18日	<0.897	<0.594	検出限界未満
14	むぎ茶(乳児用食品)		乳児用食品	7月18日	<0.743	<0.531	検出限界未満
15	清涼飲料水(乳児用食品)		乳児用食品	7月18日	<2.54	<2.75	検出限界未満
16	清涼飲料水(乳児用食品)		乳児用食品	7月18日	<2.79	<2.73	検出限界未満
17	大豆	宮城県	一般食品	8月28日	<1.43	<1.46	検出限界未満
18	牛乳		牛乳	8月28日	<0.642	<0.685	検出限界未満
19	牛乳		牛乳	8月28日	<0.570	<0.878	検出限界未満
20	牛乳	栃木県	牛乳	8月28日	<0.646	<0.687	検出限界未満
21	牛乳		牛乳	8月28日	<0.677	<0.806	検出限界未満
22	米飯類(乳児用食品)		乳児用食品	8月28日	<2.63	<2.77	検出限界未満
23	調製粉乳		乳児用食品	8月28日	<1.25	<1.60	検出限界未満
24	フルーツジュレ (乳児用食品)		乳児用食品	8月28日	<2.66	<2.34	検出限界未満
25	味噌		一般食品	10月16日	<0.749	<0.649	検出限界未満
26	牛乳	北海道	牛乳	10月16日	<0.691	<0.850	検出限界未満
27	牛乳		牛乳	10月16日	<0.788	<0.685	検出限界未満
28	牛乳		牛乳	10月16日	<0.690	<0.782	検出限界未満
29	米飯類(乳児用食品)		乳児用食品	10月16日	<3.39	<3.09	検出限界未満
30	米飯類(乳児用食品)		乳児用食品	10月16日	<2.53	<2.88	検出限界未満

	品目	産地	適用基準	買取日	セシウム-134	セシウム-137	セシウム合計
31	清涼飲料水(乳児用食品)		乳児用食品	10月16日	<0.579	<0.792	検出限界未満
32	調製粉乳		乳児用食品	10月16日	<1.29	<1.62	検出限界未満
33	精米	岩手	一般食品	1月15日	<0.779	<0.701	検出限界未満
34	牛乳		牛乳	1月15日	<0.747	<0.848	検出限界未満
35	牛乳		牛乳	1月15日	<0.787	<0.818	検出限界未満
36	牛乳		牛乳	1月15日	<0.630	<0.764	検出限界未満
37	乳飲料		牛乳	1月15日	<0.825	<0.696	検出限界未満
38	米飯類(乳児用食品)		乳児用食品	1月15日	<2.44	<3.07	検出限界未満
39	米飯類(乳児用食品)		乳児用食品	1月15日	<3.03	<2.73	検出限界未満
40	むぎ茶(乳児用食品)		乳児用食品	1月15日	<0.755	<0.715	検出限界未満
41	釜揚げしらす		一般食品	2月26日	<0.725	<0.754	検出限界未満
42	しいたけ		一般食品	2月26日	1.15	5.63	6.8
43	ハチミツ		一般食品	2月26日	<0.542	0.503	0.5
44	りんごジュース		一般食品	2月26日	<0.768	<0.659	検出限界未満
45	レンコン	茨城県	一般食品	2月26日	<0.996	9.1	9.1
46	塩漬ふき		一般食品	2月26日	<0.509	0.972	0.97
47	塩漬わらび	山形県	一般食品	2月26日	<0.730	<0.636	検出限界未満
48	干し柿		一般食品	2月26日	<0.782	2.62	2.6
49	味噌		一般食品	2月26日	<0.779	<0.694	検出限界未満
50	ミネラルウォーター		飲料水	2月26日	<0.810	<0.670	検出限界未満

エ 学校給食

単位:Bq/kg

	品目	産地	適用基準	採取日	セシウム-134	セシウム-137	セシウム合計
1	米	-	一般食品	10月30日	< 0.886	< 0.735	検出限界未満
2	麦	-	一般食品	10月30日	< 0.810	< 0.905	検出限界未満
3	牛乳	-	牛乳	10月30日	< 0.721	< 0.776	検出限界未満
4	牛乳	-	牛乳	10月30日	< 0.643	< 0.856	検出限界未満
5	牛乳	-	牛乳	10月31日	< 0.537	< 0.587	検出限界未満
6	米	-	一般食品	11月1日	< 0.792	< 0.795	検出限界未満
7	麦	-	一般食品	11月1日	< 0.881	< 0.881	検出限界未満
8	牛乳	-	牛乳	11月1日	< 0.783	< 0.758	検出限界未満

(4) 残留農薬

ア 国産品(市場収去分)

	農産物名	生産地	検体数	検出検体内容	
				検出 検体数	検出値ppm(残留基準値)
1	アスパラガス	山形県	1	0	
2	イチゴ	栃木県	3	2	アゾキシストロビン0.06(10以下)
					シメコナゾール0.11(3以下)
3	インゲンマメ	茨城県	1	0	
		秋田県	1	0	
		福島県	1	0	
4	オオバ	茨城県	1	0	
5	カキ	和歌山県	1	0	
6	キウイ	和歌山県	1	0	
7	キャベツ	群馬県	4	1	ボスカリド0.03(5以下)
		神奈川県	7	0	
8	キュウリ	岩手県	1	1	ボスカリド0.18(5以下)
		宮崎県	2	2	プロシミドン0.03(5以下)
					クロチアニジン0.11(2以下)
		群馬県	3	2	ボスカリド0.01(5以下)
					ジメトモルフ0.18(0.7以下)
					メタラキシル及びメフェノキサム0.03(1以下)
		埼玉県	1	0	
		山形県	1	0	
		神奈川県	4	4	クロルフェナピル0.05(0.5以下)
					クロルフェナピル0.02(0.5以下)
プロシミドン0.17(5以下)					
アゾキシストロビン0.11(1以下)					
栃木県	1	0	クロルフェナピル0.02(0.5以下)		
			プロシミドン0.05(5以下)		
福島県	1	0	プロシミドン0.14(5以下)		
9	ゴーヤー	沖縄県	2	0	
10	コマツナ	茨城県	1	1	イミダクロプリド0.08(5以下)
11	サツマイモ	茨城県	3	0	
		香川県	1	0	
		千葉県	1	0	
12	スイカ	千葉県	1	0	
13	ズッキーニ	長野県	1	1	4-CPA0.03(0.1以下)
14	ダイコン根	神奈川県	3	0	
		青森県	2	0	
		北海道	1	0	
15	チンゲンサイ	茨城県	2	0	
16	トウガン	神奈川県	2	0	

	農産物名	生産地	検体数	検出検体内容	
				検出 検体数	検出値ppm(残留基準値)
17	トマト	宮崎県	1	1	ボスカリド0.67(5以下) ピラクロストロビン0.11(0.5以下)
		熊本県	1	1	ボスカリド0.02(5以下) ジメトモルフ0.06(3以下)
		群馬県	1	0	
		佐賀県	1	0	
		神奈川県	2	2	ボスカリド0.04(5以下) ボスカリド0.04(5以下) ピラクロストロビン0.01(0.5以下)
		千葉県	1	0	
18	ナシ	栃木県	1	1	ビフェントリン0.01(0.5以下) フェンプロパトリン0.06(5以下)
		福島県	1	1	ビフェントリン0.01(0.5以下) クレソキシムメチル0.02(5以下) クロルフェナピル0.04(1以下) ボスカリド0.02(3以下)
19	ナス	群馬県	1	0	
		高知県	2	0	
		千葉県	1	1	4-CPA0.02(0.1以下)
20	ニラ	茨城県	2	1	プロチオホス0.01(0.1以下)
		山形県	1	0	
21	ニンジン	千葉県	1	0	
22	ネギ	山形県	4	0	
		静岡県	1	1	ルフェヌロン0.04(2以下)
		千葉県	4	1	マラチオン0.01(8以下) アゾキシストロビン0.26(10以下)
23	ハクサイ	茨城県	2	0	
		長野県	3	3	クロチアニジン0.03(2以下) インドキサカルブ0.07(1以下) ピラクロストロビン0.02(3以下) ボスカリド0.11(40以下) メキシフェノジド0.03(7以下) ルフェヌロン0.04(1以下) クロチアニジン0.02(2以下) ピラクロストロビン0.02(3以下) ボスカリド0.07(40以下) メタラキシル及びメフェノキサム0.04(0.3以下) ルフェヌロン0.02(1以下)
24	ピーマン	茨城県	4	4	ボスカリド0.1(10以下) シフルフェナミド0.03(1以下) ピラクロストロビン0.02(1以下) ボスカリド0.03(10以下) アゾキシストロビン0.01(3以下) ボスカリド0.02(10以下) シフルフェナミド0.01(1以下) ボスカリド0.03(10以下)
		山形県	2	0	
25	ブドウ	山梨県	1	1	イミダクロプリド0.13(3以下)
26	ハウレンソウ	茨城県	1	1	ダイアジノン0.04(0.1以下) フェニトロチオン1.3(0.2以下) クロルフェナピル0.02(3以下)

	農産物名	生産地	検体数	検出検体内容	
				検出 検体数	検出値ppm(残留基準値)
27	ミカン	静岡県	1	0	
		和歌山県	1	0	
28	ミズナ	茨城県	2	0	
29	リンゴ	青森県	1	1	トリフロキシストロビン0.02(3以下) プロパルギット0.22(5以下) ボスカリド0.03(2以下)
30	レタス	茨城県	4	3	チアメトキサム0.04(3以下)
					ボスカリド0.05(40以下)
					ルフェヌロン0.06(10以下) ボスカリド0.42(40以下) クロチアニジン0.01(20以下) ピラクロストロビン0.02(2以下) チアメトキサム0.02(3以下)
		群馬県	2	1	ボスカリド0.12(40以下) ピラクロストロビン0.02(2以下)
		長野県	3	2	クロチアニジン0.03(20以下)
					ジメトモルフ0.01(10以下) ジメトモルフ0.15(10以下)
福岡県	1	1	チアメトキサム0.05(3以下)		
合計			109	41	

イ 国産品(区福祉保健センター等依頼検査分)

	農産物名	生産地	検体数	検出検体内容	
				検出 検体数	検出値ppm(残留基準値)
1	カブ	神奈川県	1	0	
2	キャベツ	岩手県	2	0	
		神奈川県	2	0	
3	キュウリ	群馬県	1	0	
		神奈川県	1	1	クロチアニジン0.01(2以下) チアメトキサム0.16(0.5以下)
4	コマツナ	神奈川県	2	1	テフルトリン0.01(0.5以下)
5	ジャガイモ	北海道	1	0	
		神奈川県	3	1	クロチアニジン0.04(0.3以下)
6	ダイコン根	北海道	2	0	
		千葉県	1	0	
		神奈川県	1	0	
7	トマト	神奈川県	2	0	
		栃木県	1	0	
8	ニンジン	神奈川県	1	1	ダイアジノン0.02(0.5以下)
		徳島県	1	1	プロシミドン0.01(0.5以下)
		神奈川県	3	0	
9	ラディッシュ	神奈川県	1	0	
10	レタス	神奈川県	2	0	
合計			28	5	

ウ 輸入品(市場収去分)

	農産物名	生産地	検体数	検出検体内容	
				検出 検体数	検出値ppm(残留基準値)
1	アスパラガス	オーストラリア	1	0	
2	オレンジ	オーストラリア	1	1	クロルピリホス0.11(1以下) イマザリル(残農として)1.53(5.0以下)
3	グレープフルーツ	メキシコ	1	1	イマザリル(残農として)1.83(5.0以下)
4	シシトウ	韓国	1	1	クレソキシムメチル0.02(3以下) ボスカリド0.2(40以下)
5	ショウガの根	中国	2	0	
6	ニンニク	スペイン	1	0	
7	ニンニクの芽	中国	1	0	
8	パプリカ	韓国	2	1	クレソキシムメチル0.09(2以下) テトラコナゾール0.3(1以下) ボスカリド0.43(10以下)
9	レモン	アメリカ	1	1	アゾキシストロビン0.31(10以下) イマザリル(残農として)1.84(5.0以下) チアベンダゾール(残農として)0.91(10以下) フルジオキシニル0.54(10以下)
合計			11	5	

残留農薬検査項目

	農薬名		農薬名		農薬名		農薬名		農薬名
1	2-(1-ナフチル)アセタミド	58	キノキシフェン	115	スピノサド	172	ピリミカープ	229	プロマシル
2	4_CPA	59	キノクラミン	116	スピロキサミン	173	ピリミノバックメチル	230	プロトリン
3	BHC	60	キントゼン	117	ターバシル	174	ピリミホスメチル	231	プロモキシニル
4	DDT	61	クミロン	118	ダイアジノン	175	ピリメタニル	232	プロモプロピレート
5	EPN	62	クレソキシムメチル	119	ダイムロン	176	ピロキロン	233	プロモホスエチル
6	MCPB	63	クロキシセトメキシル	120	チアクロプリド	177	ピンクロゾリン	234	プロモホスメチル
7	TCMTB	64	クロプリネート	121	チアベンダゾール	178	フィプロニル	235	フロラスラム
8	XMC	65	クロチアニジン	122	チアトキサム	179	フェナミホス	236	ヘキサコナゾール
9	アイオキシニル	66	クロフェンテジン	123	チオベンカルブ	180	フェナリモル	237	ヘキサジノン
10	アクリナトリン	67	クロプロップ	124	チオメトン	181	フェニトロチオン	238	ヘキサフルムロン
11	アザコナゾール	68	クロマゾン	125	チフルザミド	182	フェノキサニル	239	ヘキシチアゾクス
12	アザメチホス	69	クロマフェノジド	126	テクナゼン	183	フェノキシカルブ	240	バナナキシル
13	アシフルオルフェン	70	クロメプロップ	127	テトラクロルピホス	184	フェノチオカルブ	241	ベノキサコール
14	アジンホスメチル	71	クロラズラムメチル	128	テトラコナゾール	185	フェノトリン	242	ベノキススラム
15	アゾキシストロピン	72	クロリダゾン	129	テトラジホソ	186	フェノブカルブ	243	ヘプタクロル
16	アトラジン	73	クロリムロンエチル	130	テニルクロール	187	フェンアミド	244	パンシクロン
17	アニコホス	74	クロルエトキシホス	131	テブコナゾール	188	フェンクロルホス	245	パンシフルプロンメチル
18	アモトリン	75	クロルタールジメチル	132	テブチウロン	189	フェントエート	246	パンゾフェナップ
19	アラクロール	76	クロルピリホス	133	テブフェノジド	190	フェンブコナゾール	247	パンダイオカルブ
20	アラマト	77	クロルピリホスメチル	134	テブフェンピラド	191	フェンブコナゾール	248	パンディメタリン
21	イサゾホス	78	クロルフェナビル	135	テフルトリン	192	フェンブプロモルフ	249	パンフルラリン
22	イソキサチオン	79	クロルフェンソソ	136	デメトン-S-メチル	193	フェンヘキサミド	250	パンフレセート
23	イソキサチオンオキソソ	80	クロルプロファム	137	テルブトリン	194	フェンメディファム	251	ボスカリド
24	イソフェンホス	81	クロルクロソ	138	テルブホス	195	フサライド	252	ホスメット
25	イソプロカルブ	82	クロルネブ	139	トリアレート	196	ブタクロール	253	ホメサフェン
26	イソプロチオラン	83	クロルベンジレート	140	トリクロビル	197	ブタフェナシル	254	ホルクロルフェニユロン
27	イソバリカルブ	84	シアナジン	141	トリシカラゾール	198	ブタミホス	255	ホルモチオン
28	イソロベンホス	85	シアノホス	142	トリチコナゾール	199	ブピリメート	256	ホレート
29	イマザリル	86	ジウロン	143	トリデモルフ	200	ブプロフェジン	257	マラチオン
30	イミダクロプリド	87	シクラニド	144	トリブホス	201	フラザスルフロソ	258	ミクロプタニル
31	インダノファン	88	ジクロスラム	145	トリフルムロン	202	フラムプロップメチル	259	メカルバム
32	インドキサカルブ	89	シクロスルファムロン	146	トリフルラリン	203	フラメビル	260	メソスルフロソメチル
33	エスプロカルブ	90	ジクロトホス	147	トリフロキシストロピン	204	フルアクリピリム	261	メタベンズチアズロン
34	エタメツルフロソメチル	91	ジクロルフェンチオン	148	トルクロホスメチル	205	フルキンコナゾール	262	メタラキシル及びメフェノキサム
35	エタフルラリン	92	ジクロルホップメチル	149	ナブタラム	206	フルジオキソニル	263	メチダチオン
36	エチオフェンカルブ	93	ジクロルメジン	150	ナブアエリド	207	フルシラゾール	264	トキシシクロール
37	エチオン	94	ジクロラン	151	ナブロバミド	208	フルトラニル	265	トキシフェノジド
38	エトキサゾール	95	ジクロルプロップ	152	ニトタールイソプロビル	209	フルリアホール	266	トスラム
39	エトキシスルフロソ	96	ジスルホソ	153	ノバルロン	210	フルバリネート	267	トキシストロピン
40	エトフェンブロッソ	97	シニドソエチル	154	ノクプロトラゾール	211	フルフェノクソロン	268	トシラクロール
41	エトプロホス	98	シハロホップチル	155	バラチオン	212	フルフェンビルエチル	269	トピンホス
42	エトリムホス	99	ジフェナミド	156	バラチオンメチル	213	フルミオキサジン	270	メフェンビルジエチル
43	エンドスルファン	100	シフルフェナミド	157	ハロキシホップ	214	フルミクロラックベンチル	271	モノクロトホス
44	エンドリン	101	ジフルフェニカン	158	ハロスルフロソメチル	215	フルメツラム	272	モノリニユロン
45	オキサジアゾン	102	ジフルベンズロン	159	ピコリナフェン	216	フルリドソ	273	ラクトフェン
46	オキサジキシル	103	シプロジニル	160	ビフェノクソ	217	プレチラクロール	274	リニユロン
47	オキサジクロメホソ	104	1,1-ジクロロ-2,2-ビス(4-エチルフェニル)エタン	161	ビフェントリン	218	プロシミドソ	275	リンデン
48	オキサミル	105	シメコナゾール	162	ビベロホス	219	プロチオホス	276	ルフェスロン
49	オキシカルボキシソ	106	ジメタムリン	163	ピラクロストロピン	220	プロバキサホップ		
50	オキシフルオルフェン	107	ジメチピン	164	ピラソスルフロソエチル	221	プロバジン		
51	オリザリン	108	ジメチリモール	165	ピラソホス	222	プロバニル		
52	カズサホス	109	ジメテナミド	166	ピラフルフェンエチル	223	プロバホス		
53	カルバリル	110	ジメエート	167	ピリダフェンチオン	224	プロバルギット		
54	カルフェントラソソエチル	111	ジメモルフ	168	ピリフェノクソ	225	プロビザミド		
55	カルプロバミド	112	シメトリソ	169	ピリタリド	226	プロヒドロジャソモソ		
56	カルボフラン	113	ジメビバレート	170	ピリプチカルブ	227	プロフェノホス		
57	キナルホス	114	シラフルオフェン	171	ピリプロキシフェン	228	プロボキスル		

※農作物によって検査項目は異なります。

(5) 抗生物質、合成抗菌剤、内寄生虫用剤

品名	抗生物質		合成抗菌剤等	
	検体数	検出数	検体数	検出数
うなぎ蒲焼	5	0	5	0
冷凍エビ	10	0	10	0
鶏卵	14	0	14	0
カンパチ(養殖)	3	0	3	0
シマアジ(養殖)	1	0	1	0
ヒラメ(養殖)	1	0	1	0
ブリ(養殖)	3	0	3	0
マダイ(養殖)	2	0	2	0
合計	39	0	39	0

抗生物質検査項目

オキシテトラサイクリン	クロルテトラサイクリン	テトラサイクリン
-------------	-------------	----------

合成抗菌剤、内寄生虫用剤検査項目

クロピドール	ナリジクス酸	スルファメキサゾール
ダノフロキサシン	オフロキサシン	スルファメキシピリダジン
ジアベリジン	オルビフロキサシン	スルファメキシジアジン
ジクラズリル	オルメトプリム	スルファモノメキシシ
ジフロキサシン	オキシリニック酸	スルファニトラン
ジフルベンズロン	ピロミド酸	スルファピリジン
エリスロマイシン	ピランテル	スルファキノキサリン
エトパベート	ピリメタミン	スルファチアゾール
ファミフル	スルファベンズアミド	スルファトロキサゾール
フェノブカルブ	スルファプロモメタジンナトリウム	スルフィソキサゾール
フルベンダゾール	スルファクロルピリダジン	スルフィソゾール
フルメキン	スルファジアジン	チアベンダゾール*1
レバミゾール	スルファジメキシシ	チアムリン
リンコマイシン	スルファジミジン	チルミコシン
マルボフロキサシン	スルファドキシシ	トリメプリム
メチルプレドニゾロン	スルファエトキシピリダジン	キシラジン
モランテル	スルファメラジン	

*1 畜水産物:チアベンダゾール及び5-ヒドロキシチアベンダゾールの和
 その他の食品:チアベンダゾールのみ

検査項目は検体により異なります

(6)水銀

単位:ppm

魚 種	総水銀			メチル水銀		
	検体数	検出数	検出範囲	検体数	検出数	検出範囲
ア オ メ エ ソ	2	2	0.02~0.04	0		
ア カ カ マ ス	1	1	0.13	0		
ア カ ガ レ イ	1	1	0.07	0		
ア カ シ タ ビ ラ メ	1	1	0.05	0		
ア カ メ バ ル	1	1	0.04	0		
イ サ キ	2	2	0.11~0.17	0		
ウ マ ズ ラ ハ ギ	1	1	0.02	0		
カ キ	1	0	不検出	0		
カ ン パ チ	3	3	0.12~0.18	0		
ク ロ ウ シ ノ シ タ	2	2	0.02~0.02	0		
ク ロ ガ レ イ	1	1	0.02	0		
サ ワ ラ	2	2	0.02~0.02	0		
サ ン マ	1	1	0.07	0		
シ マ ア ジ	1	1	0.16	0		
シ ラ ウ オ	1	1	0.01	0		
ス ル メ イ カ	1	1	0.03	0		
ト ラ ギ ス	1	1	0.05	0		
ハ チ ビ キ	2	2	0.18~0.53	1	1	0.43
ババガレイ(ナメタガレイ)	2	2	0.03~0.08	0		
ヒ ラ メ	5	5	0.04~0.23	0		
ブ リ	5	5	0.03~0.17	0		
ホ ウ ボ ウ	1	1	0.05	0		
マ ア ジ	2	2	0.01~0.03	0		
マ イ ワ シ	3	3	0.01~0.02	0		
マ ガ レ イ	2	2	0.05~0.08	0		
マ コ ガ レ イ	3	3	0.02~0.04	0		
マ ゴ チ	1	1	0.08	0		
マ サ バ	3	3	0.06~0.17	0		
マ ダ イ	6	6	0.07~0.24	0		
マナマコ(アカナマコ)	1	0	不検出	0		
メ ゴ チ	1	1	0.01	0		
合 計	60	58		1		

* 暫定的規制値を超える総水銀を検出した検体は、本市衛生研究所でメチル水銀検査を依頼しています。

(7)PCB

単位:ppm

魚種	検体数	検出数	検出範囲
アオメエソ	1	0	
クロウシノシタ	1	0	
トラギス	1	0	
ヒラメ	1	0	
マアジ	1	0	
マイワシ	1	0	
マコガレイ	2	0	
マゴチ	1	0	
マサバ	1	0	
合計	10	0	

(8) 貝毒

単位:MU/g

単位:mgOA当量/kg

品名	形態	麻痺性貝毒			下痢性貝毒		
		検体数	検出数	検出範囲	検体数	検出数	検出範囲
アカガイ	殻付	7	2	1.93~2.85	7	0	
アサリ	むき身	5	0		5	0	
ハマグリ	殻付	7	0		7	0	
ホタテガイ	殻付	14	0		14	5	0.02~0.16
合計		33	2		33	5	

(9) ふぐ毒

単位:MU/g

品名	産地	種類	検体数	検出数	検出範囲
ふぐちり鍋材料	長崎県	トラフグ	1	0	5.25未満
ふぐ刺し(筋肉)	長崎県	トラフグ	1	0	5.25未満
ふぐ刺し(皮)	長崎県	トラフグ	1	0	5.25未満
身欠きふぐ	長崎県	トラフグ	1	0	5.25未満
身欠きふぐ	中国	シロサバフグ	1	0	5.25未満
合計			5	0	

6 違反食品等

番号	食品	違反等の内容		措置内容
1	しらす干し	食品衛生法 第11条第2項違反	漂白剤（過酸化水素） 0.007g/kg検出 （基準値 0.005g/kg未満）	製造所を所管する自治体へ通報
		食品表示法 第5条違反	漂白剤（過酸化水素）の表示 欠落	製造所を所管する自治体へ通報
2	魚類（すずき 目魚）	水銀の 暫定的規制値	総水銀 0.53ppm検出 メチル水銀 0.43ppm検出 （基準値 総水銀0.4ppm かつメチル水銀0.3ppm）	生産地を所管する自治体へ情報提供
3	サンドイッチ	弁当及びそらぎ いの衛生規範不 適合	生菌数 8300万/g	製造所を監視指導、指導票交付
4	ほうれんそう	食品衛生法 第11条第2項違反	フェニトロチオン （Fenitrothion）1.3ppm検出 （基準値 0.2ppm以下）	生産地を所管する自治体へ通報

7 相談対応(主な事例)

番号	概要	調査結果
1	パック入りのマグロ切身に付着した 異物が何か調べてほしい。	当該異物は半透明無臭の硬質物質であり、半透明の組織及び繊維状の組織 が確認された。 燃焼試験を行ったところ、プラスチック等を燃焼した際に見られるような 形状の軟化は認められず、炭化した。臭気については、薬品臭等は認めら れず、魚介類を燃焼させた時と類似した臭気が認められた。 また、溶解試験を実施したところ、ガスの発生が認められた。 以上の結果より、当該異物は魚の骨またはその他動物由来の組織であるこ とが推定されたが、物質の特定には至らなかった。
2	ぶどうに虫の羽が混入していたと消 費者から返品があった。どんな虫か 調べてほしい。	当該対象物は、4cm程度の昆虫の翅であった。 観察の結果、翅脈は発達しており網状で、明瞭な結節を有していた。翅の みとなっており、先端部分が欠損していたため、種類の特定には至らな かったものの、構造上の特徴より、蜻蛉目（トンボ）の一種であると推定 された。
3	生サクラエビのパックに入っていた 魚について、何か調べてほしい。	当該品は、全長3.1cm 体長2.7cm 体高0.7cmであった。 鱗は確認できず、腹側に発光器がならんでいるのが見られた。 以上より、ハダカイワシ科の幼魚と推察された。
4	アブラカレイに付着していた寄生虫 が何か調べてほしい。	当該対象物は直径約7mm程度の渦巻き状をしており、延伸したところ長さ 3cm程度、幅0.5mm程度の細長い虫体であった。 拡大観察したものの、消化管構造不明瞭のため種類の同定には至らなかつ たが、色及び形状より、当該寄生虫はアニサキス類（アニサキス、シュ ードテラノーバ等）であると推定された。

8 衛生教育実施結果

平成29年度に、場内の食品関係業者及び給食施設従事者、並びに一般の見学者等について、講習会等衛生教育を行いました。

両会場の合計は、総回数19回、延人数616人でした。

		食品衛生責任者指定講習会等	消費者等見学者向け衛生教育
回数	本場	5	12
	南部	2	0
人数	本場	172	367
	南部	77	0

9 その他の業務

- (1) 環境保全に関する業務
ネズミ、ゴキブリ等衛生害虫駆除の指導
- (2) 広報業務
インターネットによる検査情報等の配信

市場食品衛生検査所関係年表(S58年以降)

昭和58年	2月	●アオブダイの肝で食中毒発生(1名死亡)
	9月	●韓国産輸入生うにが原因と思われる食中毒多発
	12月	●「ふぐの衛生確保について」厚生省通達
昭和59年	6月	●辛子蓮根によるボツリヌス食中毒事件発生
昭和60年	4月	●TBTO問題について厚生省通達
	8月	●ジエチレングリコール混入輸入ワイン事件発生
昭和61年	6月	●生鮮野菜等に発色・漂白目的で添加物を使用することの禁止が通達される
	8月	●横浜市内でヒメエゾボラのテトラミンによる食中毒が発生
	10月	●「神奈川県ふぐ取扱及び販売条例」改正、届出による「ふぐ加工製品」の販売が可能になる
昭和63年	1月	●シンチレーションサーベイメーターによる放射能測定検査開始 ●EDB暫定規制値改正(パパイヤ、サヤインゲンに加えて、マンゴーにも輸入・移送時の残留を認めない)
	2月	●いわゆる「背曲がりブリ」について取扱規制(場内業者あて通知)
平成元年	1月	●輸入ナシフグによると思われる食中毒が散発、厚生省が監視・検査の強化を通達
	3月	●チリ産ブドウのシアン混入事件発生
平成2年	4月	●米国で必須アミノ酸であるL-トリプトファン製造過程で不純物が混入したため利用者に健康障害が多発し、患者1500名、死者21名に達した
	10月	●井戸水を原因とする腸管出血性大腸菌による下痢症集団発生 ●洋菓子(ティラミス)によるサルモネラ食中毒事件散発
平成3年	8月	●千葉県と神奈川県でコレラ患者発生
平成4年	3月	●瀬戸内海及び三河湾産アサリが麻痺性貝毒で出荷自主規制
	4月	●広島産の生かきが麻痺性貝毒で出荷自主規制
	11月	●イマザリルが食品添加物として指定された
平成5年	2月	●ナシフグの輸入・販売が禁止された
	3月	●食肉製品規格基準改正
	4月	●中国産赤貝から麻痺性貝毒検出
	7月	●横浜市食品監視機動班発足
	9月	●農薬89種類の残留基準制定
	11月	●横浜市でオゴノリによる食中毒発生(死亡者1名)
平成6年	8月	●中国・韓国産生うにの多くから腸炎ビブリオを検出、8月中の入荷を自主規制 ●輸入赤貝から相次いで着色料を検出

平成7年	2月	●米国産リンゴからTBZを検出
	5月	●食品添加物規制の見直し、残留農薬基準値策定の推進、営業許可の見直し等、食品衛生法の大改正
	9月	●国産・輸入ミネラルウォーターにプラスチック片などの異物混入
	10月	●輸入農産物を中心に残留農薬検査を開始
平成8年	3月	●中国産原料うに及びそのうにを使用したうに加工品からホウ酸を検出
	5～12月	●腸管出血性大腸菌O157による食中毒が全国的に発生し、感染者17,877名、健康保菌者1,475名、死者12名に達した
	5月	●乳類、一部の乳製品、食肉製品について総合衛生管理製造過程(HACCP)を経た製造の承認制度が始まる
平成9年	4月	●食品衛生検査施設における適正管理運営基準(GLP)が義務付けられる
	5月	●鮮魚への一酸化炭素の使用問題に対し、厚生省がマグロ、ブリ中の一酸化炭素の検査基準を通知
	6月	●東京都でマレーシア産オイスターソースからボツリヌスA型菌検出 ●大型原油輸送船ダイヤモンドグレース号座礁による東京湾原油流出事故発生
平成10年	6月	●東京都と富山県でイクラ醤油漬を原因とするO157による食中毒事件発生
平成11年	4月	●いか乾製品を原因とするサルモネラ・オラニエンブルグによる食中毒事件が全国的に発生
	10月	●茨城県東海村ウラン燃料加工施設で放射能漏れ事故が発生
		●容器包装に入れられた生食用かきに「採取海域」の表示が義務付けられた
	11月	●鶏卵に期限表示などの表示が義務付けられた
平成12年	2月	●横浜市の同一チェーン店でハンバーグステーキを原因とする腸管出血性大腸菌O157による食中毒事件が発生
	6～7月	●雪印乳業(株)大阪工場で製造された低脂肪乳を原因とする黄色ブドウ球菌による食中毒が発生し、発症者は8府県で約6,500名に達した
	7～8月	●全国的に食品に関する苦情件数が前年度を大きく上回った
平成13年	4月	●関東・東北地方で牛タタキ、ローストビーフを原因とする腸管出血性大腸菌O157による集団食中毒が発生する
	7月	●生食用鮮魚介類等の規格基準が設定され、成分規格、保存基準等が施行される
	9月	●千葉県で国内初のBSE感染牛が発見される。翌日より全国で全頭検査を開始
	11月	●西日本を中心に韓国産生カキによる赤痢感染が多発し、輸入禁止となる
平成14年	5月	●中国産冷凍ほうれん草による残留農薬違反が問題となる
	9月	●なし、リンゴ等の農産物に無登録農薬(カプタホール、シヘキサチン)が使用される
平成15年	5月	●食品安全基本法の制定、食品衛生法の大改正が行われる
	9月	●本場マグロ低温卸売場が稼動開始する
平成16年	4月	●横浜市食品衛生監視指導計画に基づく監視指導を開始する
	6月	●南部市場マグロ低温卸売場が稼動開始する
平成17年	7月	●本場冷凍・塩干低温売場が稼動開始する
平成18年	5月	●改正食品衛生法施行に伴いポジティブリスト制度スタート
	8月	●両市場検査所にガスクロマトグラフ質量分析計が導入される
	12月	●ノロウイルスによる食中毒が全国的に大発生する

平成19年	9月	●宮城県で生産された「いかの塩辛」により、腸炎ビブリオによる食中毒事件が全国で散発的に発生する(市内で発生した事件がこの発端となる)
	12月	●フグの不適切な取り扱いによる事故が多発したことから厚生労働省より指導強化の通知が出される
平成20年	1月	●中国産冷凍餃子から農薬メタミドホスが検出され、健康被害が発生する
		●茨城県で除毒されていないフグを喫食したことによる死亡事件が発生する
	9月	●両市場検査所にリアルタイムPCR装置が導入される
		●中国にて健康被害の原因であったメラミンが混入した食品が輸入される
		●非食用に限定された事故米穀を、非食用であることを隠して転売していたことが発覚する
	10月	●中国産冷凍インゲンから農薬ジクロロボスが検出され、健康被害が発生する
平成21年	6月	●新型インフルエンザWHO 警戒水準フェーズ6 世界的流行(パンデミック)
	7月	●神奈川県食の安全・安心の確保推進条例施行(一部平成22年4月1日施行)
	10月	●賞味期限切れ冷凍うなぎ蒲焼きの賞味期限偽装事件が発覚する この冷凍うなぎ蒲焼きからマラカイトグリーンやロイコマラカイトグリーンが検出される
平成22年	4月	●宮崎県で牛の口蹄疫発生
	6月	●えび、かこのアレルギー表示義務化
平成23年	3月	●東日本大震災、福島第一原子力発電所事故の発生
	4月	●ユッケによる腸管出血性大腸菌食中毒事件が発生
	9月	●両市場検査所において食品中の放射性物質検査開始
	10月	●生食用食肉の規格基準が設定される
平成24年	4月	●食品中の放射性物資の基準値が設定される
	7月	●牛肝臓の生食用としての販売提供が禁止
	8月	●浅漬を原因とする腸管出血性大腸菌O157食中毒事件が発生
	10月	●両市場検査所において、ゲルマニウム半導体検出器を用いた放射性物質検査を開始
平成25年	10月	●大手ホテルやデパートの料理でメニューと異なる食材を使う虚偽表示問題が発覚
	12月	●冷凍食品から農薬マラチオンが検出され、健康被害が発生する
	12月	●和食がユネスコ無形文化遺産登録決定
平成26年	1月	●浜松市内の学校で給食のパンを原因とする大規模なノロウイルス食中毒が発生
	7月	●中国の食肉加工会社で期限切れ鶏肉等を日本へ供給していた問題が発生
	7月	●静岡市内で冷やしキュウリによる大規模な腸管出血性大腸菌 O157事件が発生
	12月	●全国的に食品へ異物混入事件が相次ぎ、製造者側では自主回収対応等を実施
平成27年	3月	●南部市場食品衛生検査所が閉所し、本場食品衛生検査所と統合
	4月	●食品表示法施行
	6月	●豚の肉や内臓を生食用として販売提供することが禁止
平成28年	8月	●神奈川県ふぐ取扱い及び販売条例が一部改正され、「ふぐ加工製品」を業として取り扱う場合は、知事の認証を受けなくても届出のみで調理・加工等を認められることとなった
平成29年	2月	●学校給食で提供された刻みのりを原因とする大規模なノロウイルス食中毒が発生
	8月	●関東地方を中心に腸管出血性大腸菌O157 VT2による食中毒が発生
	9月	●新たな加工食品の原料原産地表示制度が始まる

平成30年11月発行

食品衛生検査所事業概要

横浜市中央卸売市場

本場食品衛生検査所

〒221-0054

横浜市神奈川区山内町1番地

TEL045(441)1153